



アンフィニ Infini

2023. No.49 石井孝昌新会長就任特別号

発行/
一般社団法人
千葉県中小企業診断士協会

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央3丁目10番6号 北野京葉ビル3階 TEL 043-301-3860 FAX 043-306-3915 E-mail: info@chiba-smeca.com

新任理事のご紹介

**石井 暢彦 理事**
〈会員支援部〉

本年より理事に就任いたしました石井暢彦です。
私は診断士登録以降、5年間千葉県協会に所属してまいりました。千葉県協会では、診断士として右も左もわからない私を、会長をはじめ理事の皆様方、診断士の諸先輩方は暖かく迎えてくださり、様々な事柄を教えてくださいました。
特に千葉県協会の開催するイベントや研究会後の懇親会では非常に多くの交流をさせていただき、交流の中で私の人生(恋愛)相談をさせていただいたことも記憶に新しいです。このようなアットホームで居心地の良い千葉県協会は、私にとって”なくてはならない場所”です。
まだまだ未熟者ではございますが、私と同じように会員の皆様にとっても千葉県協会が”なくてはならない場所”としてご認識いただけるよう精進してまいりますので、引き続き変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

**庄子 幸子 理事**
〈地域振興部〉

青森県十和田市生まれ、趣味は旅行。新卒で税理士法人に入社し、会計・税務顧問の他に「経営診断」「経営計画の策定」「経営会議の実施」等により「経営改善」を体感しました。「自分の視野を広げたい」との理由から退職し、元々興味があった地域活性化に焦点を当て、日本各地(北海道・島根・鳥取・高知・沖縄)を働きながら滞在。その時に「地域の経営支援が足りてない」と感じて中小企業診断士を目指します。
現在は窓口相談や専門家派遣などを通じて、千葉県内で頑張る事業者様をご支援させていただいております。診断士人生の出発点である「地域活性化」をテーマに研鑽して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**佐々木 豊 理事**
〈研修部〉

この度、理事に就任しました研修部の佐々木豊と申します。現在は、独立診断士として主に中小企業活性化協議会を通じて、厳しい状況下にある中小企業の方々の収益力改善・事業再生・再チャレンジの支援をしております。
また、研修部としては、理論政策更新研修・ポリテクセミナー・新入会員研修といった様々な活動を通じて、会員の皆さまが継続的に学習スキルアップを図っていただけるようにサポートしていきたいと思っております。
千葉県中小企業診断士協会のミッションである「千葉県内の中小企業の行く先を照らし、伴走して、元気にする」をもとに、中小企業の取り組みを支援し、地域の発展に貢献していきたいと思っておりますので、皆さまよろしくお願ひいたします。

**西 優 理事**
〈研修部〉

大学院卒業後、大手自動車部品メーカーで燃料電池の研究開発を行っていました。その後、一転してキャラクターグッズの企画販売で起業し、同業のキャラクターグッズのメーカーに再就職。商品の進捗管理の他、受発注からロジスティクス、人事労務会計まで、経営に関わることを広く担当させていただいてきました。これまでに得た広い知見を生かして社会に貢献したいと思い、2023年1月に独立しました。
何でも引き受けたがりの性格からか、実はアンフィニに登場するのは4回連続となります。協会の中からも、そして協会外の中小企業からも、気軽に相談をいただける診断士になれたらいいなと思っております。着物姿の診断士を見かけたら是非お声がけください。

編集後記

本部の「企業診断ニュース」も今年の4月からWeb化となります。コスト面などからいろいろな紙媒体がWeb化しているのは個人的には寂しいことだなあ、と紙媒体派の私は思っています。千葉県協会の「アンフィニ」は前号からカラー化を果たし、「顔が見える、アットホームな千葉県協会」を会員の皆さまにお知らせする大切な媒体としてハイブリッド(紙媒体+協会HP)で続けていきたいと思っております。今回は「石井孝昌新会長就任特別号」と銘打ち企画・作成いたしました。5名のアンフィニ編集委員が知恵を絞って企画から取材、原稿の作成と作り上げていますので、ぜひ全ページお目通しいただければと思います。

(編集委員長・会員支援部理事 桂川 慎一)



■「Infini アンフィニ」は、一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会が発行する機関誌です。

■本誌に関するご意見、お問い合わせ等は、一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会までご連絡ください。本誌記載の記事内容、情報等の無断転載を禁止します。

CONTENTS

トピックス	1
みんなで千葉県内の中小企業を元気にしたい 会長 石井 孝昌	2
石井孝昌×今井和夫 新旧会長対談 ~今後のさらなる成長に向けて~	4
変化に対応するための横断的な新組織「プロジェクト推進室」	10
退任副会長、新任副会長挨拶	16
キラリと光る！診断士の武器はいかに!?	18
2022秋の診断士まつりコラボ企画「石井孝昌新会長に聞く！」の裏側	22
2022年 新入会員研究発表	26
アンフィニができるまで	32
協会新体制紹介「イベントレポートチーム」が活躍中!	34
新任理事のご紹介・編集後記	36

トピックス

●「kintone」を導入します 業務システム導入PT 森 一真

千葉県中小企業診断士協会はここ数年で会員数が急速に増加し、かつ、補助金申請業務や窓口相談業務等の業務受託件数も大幅に増えました。このため、事務局および営業担当の業務量も大幅に増えており、業務改善・効率化が必要な状態になっています。

そこで、事務局業務や案件管理業務を効率化するツールとして、サイボウズ社の業務アプリ構築サービス「kintone」を導入することにしました。kintoneで作成するアプリにより、情報の共有・再利用、情報収集の効率化、情報発信の簡略化などが実現できると考えています。

まずは、会員の皆さまの情報を登録いただく「会員情報」アプリを作成しました。このアプリで会員の皆さまの情報を営業担当や事務局が共有し、効率的に業務依頼を行いたいと思っております。補助金申請、専門家派遣、窓口相談業務などの受託を希望される会員の方は、まずこの「会員情報」アプリに情報を入力するよう、お願ひいたします。

さらに今後は個別業務の管理アプリや事務

局業務の効率化につながるアプリの開発を行うとともに、研究会活動や会員相互の情報交換など、情報を発信したり蓄積したりできるkintoneの機能も活用していきたいと考えております。

●インボイス制度についての説明会を実施しました 総務部理事 鳥光 恭介

昨年末の慌ただしい中インボイス制度に関する説明会を開催いたしました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。遡ること説明会の10日前に自民党から税制改正大綱が発表され新たな経過措置が盛り込まれ、それを受けての説明会となりました。消費税の納税申告の仕組みから現行制度とインボイス制度の違い、協会としての方針および会員の皆さまが取りうる今後の対応を数値のシミュレーションとともに説明させていただきました。大綱に示されたとおりの制度改正となれば免税事業者が課税事業者になることへのハードルが下がることになるかと思っております。課税事業者になるか否かも含め判断が必要な制度になりますので、何かご不明点があれば事務局にご連絡ください。





みんなで千葉県内の中小企業を元気にしたい

会長 石井 孝昌



2022総会にて今井和夫前会長と

日頃より協会運営にご協力いただきありがとうございます。2022年6月から千葉県中小企業診断士協会の会長となりました石井孝昌です。中小企業の経営環境や中小企業診断士を取り巻く環境が激変する中、千葉県協会の会長職を4期8年務められ、協会運営に尽力された今井和夫先生にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。後任として身が引き締まる思いですが、私なりに精一杯、地域ならびに千葉県協会の発展に努めて参ります。

アンフィニ発刊にあたり、中小企業および中小企業診断士を取り巻く環境、千葉県協会の取組みについてご説明させていただきます。

1. 中小企業および中小企業診断士を取り巻く環境

2011年の東日本大震災、2019年から続く新型コロナウイルス感染症の流行など、近年は災害・疫病という大きな環境変化が発生し、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しました。コロナ以前から働き方改革が叫ばれていましたが、テレワーク、副業・兼業などは新型コロナウイルス感染症の影響により大きく浸透し、人々のラ

イフスタイルの変化につながっています。新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、戦争の発生、原油・原材料価格の高騰などもあり、ますます時代は混迷を極めていっていると思わずにいられません。

一方、国は中小企業対策として、資金繰り支援、事業再構築、生産性革命推進など、手厚い支援メニューを提供しています。中小企業白書(2022年)では、感染症下における事業再構築の重要性はもちろんのこと、中小企業の成長を促すための取組として、ブランドの構築、従業員の能力開発、その他、海外展開や脱炭素化などが挙げられ、また、デジタル化支援、経営力再構築伴走支援の重要性が説かれています。

そのような環境を背景に、地域の中小企業や商工団体・金融機関・保証協会など支援機関の皆様から我々診断士協会にいただくご要望は増加しているだけでなく、高度かつ多岐にわたるようになってきました。研修・セミナーの企画運営、窓口相談、専門家派遣、各種経営計画作成支援など、様々な場面でお声がけをいただく機会が増えてきました。最近では伴走支援というメニューも加わりつつあります。中小企業診断士が仕事をするにあたり、現在は追い風が吹いていると言ってよいでしょう。



会長としての初仕事、総会進行



2022秋の診断士まつり(関連記事P22~)

2. 千葉県協会の取組み

中小企業診断協会千葉県支部から千葉県中小企業診断士協会として法人化した2012年当時は会員数が約150名でしたが、現在は会員数約450名となり、千葉県協会は急激に規模が拡大しました。会員が増加したのは、東京協会が運営する実務補習に千葉県協会からも指導員が参加するようになり、新たに中小企業診断士となる人々との接点が増えたことでもあります。我々の取組みに賛同していただける方々が増えたと言うこともできるのではないかと思います。

これまでの千葉県協会の取組みは、理論研修の運営はもちろんのこと、千葉県協会が主催する研修・勉強会、研究会の運営支援、春まつり・秋まつりなどイベントの充実を図ってまいりました。また、商工団体・金融機関・保証協会など地域の支援機関と連携した受託事業も強化しています。これらは多くの会員の方々が連携して実行してきたことであり、千葉県協会らしいフラットで顔の見える風土につながっていると思います。情報発信については試行錯誤をしているところですが、フェイスブックページやYouTubeチャンネルの運営もしております。今後、情報発信を強化していきますので、ぜひそれらのアプリに登録してご覧いただければと思います。

今井前会長の時代からは「千葉県内の中小企業の行く先を照らし、伴走して、元気にする。」を千葉県協会のミッションと掲げて活動してき



レジェンドに囲まれる石井会長

ました。私はミッションをもう少しブレイクダウンして、千葉県協会が担うべき機能は「集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する」とお伝えするようにしています。これにつきましては、本号「新旧会長対談」の中でも触れておりますので、ぜひそちらもご覧いただければと思います。

外部環境は常に変化しており、現在我々に吹いている追い風が止むことも当然あり得ます。追い風が止んだ時にこそ中小企業診断士の存在意義が問われるはずですが、どんな時でも我々が地域の中小企業を元気にする取組みを継続していくためには、我々自身が継続的に能力を高めて一人一人が強い「個」となること、その強い「個」が連携して相乗効果を発揮していくことが大切だと思います。千葉県協会は、これまでの取組みを継続しながら、新しい考えを積極的に取り入れ、もっともっと千葉県内の中小企業を元気にしていきます。皆さん、ぜひ一緒に頑張りましょう！



理事会終了後には懇親会も!



石井孝昌×今井和夫 新旧会長対談 ～今後のさらなる成長に向けて～

千葉県中小企業診断士協会は、2022年6月に新しい会長に理事の石井孝昌氏が昇格する人事を決めました。会長交代は8年ぶり、今井和夫前会長は引き続き、中小企業診断協会本部理事を務めます。今回、新旧会長の対談を行い、振り返りと共に、今後の意気込みを語っていただきました。



お互いの初対面の印象

◆今井先生から見た石井先生の印象

今井：当時、千葉県支部だったのですが、若い独立診断士はまだ少なかった頃です。やっと石井先生のような若い人が独立と言ってもいい形で入ってきてもらったので、本心強かったです。一方で、印象としては、今はしっかりしているのですが、当時は少しいい加減なところがあるなと正直思いました。今は立派な本当に頼りになるリーダーですね。私からすると印象はだいぶ変わりました。

いい加減なところがあるなと思ったのは、なんでも「大丈夫です。大丈夫です」と言うので



(石井先生) 幼少時代

ですが、実は全然大丈夫ではなかったりすることがあったのです(笑)。

昔、某市から石井先生が入札に来ていないと

私に電話がありまして、石井先生に直ぐに連絡して「これ個人の案件だったらとやかく言うことではないけれど、千葉県協会の仕事なのだから、しっかりやらないと駄目だよ」という風に少し電話口で怒った記憶があります(笑)。

石井：ありましたね(笑)。某市の入札のことは昨日のことに覚えています。入札に書類を持っていかないといけないのを、私はすっかり忘れていたのですよね。今井先生と会った頃は、確か今井先生が千葉県支部の副支部長とかだったぐらいのときですね。

今井：やはりサラリーマンとは違って、独立すると自分が全てです。何でも自分で決断して行動しなければいけないので、しっかりしてくるというのはありますね。石井先生とは、もう10年ぐらい二人三脚で、仲間として活動してきていますが、お互いに成長してきている実感があります。



(今井先生) 独立前の新入社員の頃

私自身も一緒にBプロの立ち上げ等をやっている中で、お互いに勉強しながら苦労しながら成長してきたという思いはありますね。

◆石井先生から見た今井先生の印象

石井：今井先生は、当時は若手の診断士は少

なかったのですが、その中で40代前半の若手ホープでいらっちゃって。千葉県の経営支援を背負っていく存在としてみんな認識していました。徐々に一緒に仕事をしていくようになっていったのですが、ご本人はよく「僕は真面目が取り柄で、人柄だけでやってきました」っておっしゃっていました。

でも、ある時、一緒に打ち合わせに参加した際に、お客様が支離滅裂なおっしゃっていたのですが、今井先生が「それはつまりこういうことですね」と非常に的確に、美しく言葉をまとめて返して、この人は人柄じゃなくて、天才だと思ったことがあります。そういったところも、非常に学ぶところが多く、一人の専門家としてどうあるべきか、ということを考えるきっかけになりました。

今井：そう言ってくれるのは嬉しいのですが、自分自身で本当に企業に役立っているなって感じ始めたのは、独立して10年以上経ってからですから、診断士というのは難しいですね。ある程度満足がいった仕事ができたと感じる機会が増えてくると本当に面白い仕事なのですが、もがいていた期間が結構長かったです。

石井：あまりそういった姿の記憶がないですね。

今井：8年前の会長になるぐらいの時には、ある程度、診断士としての地盤ができてきて、成長したところでした。ただ、石井先生と会った時は15年くらい前の、まだもがいていた時期で、ある市の地域活性化の事業で、当時石井先生がITの専門家という立場と一緒に仕事をしたことがあります。当時私は商店街の専門家として仕事をしていました。仕事の内容によるものの、商店街の仕事って結果が見えにくいところがあるので、そういった点でももがいてい

たというところがあります。

立場の変化で変わったこと

◆会長になって変わったこと

石井：物理的にはメールや会長職として依頼されるが増えました。

千葉県協会は会員数がどんどん増えていきます。また中小企業診断士の認知度が徐々に高まっていく中で、地域における経営支援の担い手として千葉県中小企業診断士協会に対する期待も大きくなってきていると感じています。

例えば、商工団体における窓口相談や専門家派遣、保証協会の専門家派遣、金融機関から企業の紹介を受ける経営改善支援、補助金申請などのご依頼はこの10年間で飛躍的に増加しています。組織の代表者となることは精神的には大きなプレッシャーを感じるようになりました。今井前会長も会長職をこなしながら、自身も専門家としてご活躍されていたということを改めて知り、私も会長として、またイチ専門家として、がんばらなくてはと思っています。

◆会長を退任してから変わったこと

今井：今まで、協会の仕事が20%～30%ぐらい自分の仕事の一つとしてあった状態でした。退任したら変わるのだろうなとすごく期待していたのですが、22年11月に還暦になったこともあり、体力的にも精神的にもやっぱり衰えが出ている感じはあります。世の中、そう上手くいかないということですね。だから「これからは自分の仕事をもっと一生懸命できるぞ。」という風にすごく期待していたのですが、なかなか思い通りにいかないですね。自分自身の仕事に対する部分ってというのは、そんなに変わってないかなと思っています。

石井：今までは要するにエースで4番で監督だったのですよ。それがまあ監督は変わったもののエースで4番は専門家として立っておられて、そこはまだ引き継ぐ人が現れていないと思っています。

今井：仕事に関しては、石井先生をはじめ、皆さん私よりも優秀な人たちがいっぱいいますよ。会長の時は背負っているものが違って、発言については、それなりの影響が出てしまうところがありましたので、慎重に判断し、発言しないと決めませんでした。今は会議で自分が気になったことは好きに発言できてしまうので、確かにだいぶん変わりましたね(笑)。また、少し意識しているところは、石井会長、副会長の方々は、組織という枠組みの中では偉くなっている、あまり周りから言われなくなってしまうわけですよ。それは組織としてあまり良くないので、重要な点について、言うべきことを言う存在が必要かなと思っています、そこを意識している部分はあります。

石井先生に関しては、会長職の事業承継という形に今回はなっていますが、本人にも、他の理事の方々等にも次は石井先生だということを前から言ってきたので、準備を含めてうまく承継できたと思っています。

石井：5～6年前ごろから徐々に今井先生からほめかされてきました(笑)。

◆会長時代に苦労したこと

今井：4期8年、会長職を勤めさせていただいたのですが、いろんなトライ&エラーを重ねていく中、事業収益は10倍ぐらい、会員数も2倍以上になりました。そのため、組織としての体制整備が最も大変だったと思っています。会長と

いうのは、やはりそういう組織人的なものを背負う部分があります。ただ、理事の皆さんの献身的な活動に支えられて運営できたことは大変幸せであったし、大変感謝しています。また、診断士協会には様々なジャンルの専門家がたくさんいるので、困難なことが生じて、協力しながら解決していける部分が心強かったです。

個人としての仕事量としては、自分の仕事の前に協会関連のメール等の対応をする必要があったので、自分の仕事の後回しになって寝る時間が無くなっていった点は大変でした。実際には細切れで睡眠をとったりしてはいたのですが、いろんな方からいつ寝ているのかと言われていました。性格的にしっかりやりたいという気持ちが強いので、寝ないでやればいいと、すぐそっちに逃げてしまうところがありました(笑)。

石井：今井先生に結構メールすると何時でも返信がきましたね。夜中の返信は、今井先生の寝る前なのか、朝の始まりなのかかわからない時間でも、すぐメールの返信をいただいていた。

今井：今は、椅子をゲームチェアに変えて気持ちがいいので、いつのまにか寝ちゃっていますね。

石井：サプリメントを大事にされていますよね。一時とてもお気に入りのサプリが製造中止になってしまって、「これがあるから寝ないで仕事ができるのに、飲めなくなると寝ないで仕事ができなくなる」と落ち込んでいらっしまったことがありまして(笑)。

今井：支援先が製造していたサプリでしたね。実はサプリについては、コロナ禍になって飲んでいる種類が増えたのですよ。YouTubeのおすすめ動画で免疫力を高める成分の紹介があり、

ビタミンやミネラル等いろいろ飲んでます。

石井：昔、ある時にみんなの健康法を聞かせてくれという話になって、茂木さんは週に1回汗をかく運動、川村さんがランニング、私はゴルフと言ったら、今井先生が「なんでサプリを飲まないんだ」って怒って(笑)。



(石井先生・中央) ゴルフ部時代

今井：石井先生、話を盛るのは昔からの悪い癖ですよ(笑)。元々、学生時代にスキーをやっていて、社会人になってもスキーで国体に出たり、テニスをやっていたりしていましたが、忙しくなってできなくなってしまいました。体を動かす代替として支援先のサプリを飲み始めたのがきっかけですね。



(今井先生) 学生時代滑降に出場時

◆本部役員としての意気込み

今井：連合会本部は、千葉県協会のように理事が集まって運営しているのではなく、事務局が事前準備をして、理事会で内容を説明される形式になっています。それに対して意見を伝えたり、内容の是非を判断したりするということをしています。

従って、千葉県協会の会長として最も大事な役割は、中小企業支援に対する国の動きの情報や、診断協会全体的な方向性などの情報を、千葉県協会に伝達することだと思っています。また、広報委員会の委員長に就任しているので、そういった情報も取得しています。連合会本

部の理事会の後には必ず飲み会があり、そこでも色々な情報収集をして、それを千葉県協会にフィードバックしていくというようなことをやっています。

今回、石井先生にも本部理事の就任について、どうするかを相談したのですが、この1期2年は引継ぎをしながら、次は石井先生でという形で進めることになりました。やはり会長がそういった本部の情報に接することはとても重要なことかと思っています。

◆前会長から新会長へのエール

今井：しっかりと目指す方向性を示していて、しっかりやられているので、今のままやっていただければいいかと思います。引き続きがんばってほしいですね。石井先生は、性格が優しすぎてしまうところを少し心配していたのですが、この頃リーダーとして、スパッと決断をしっかりとしているので、今のまま進んでほしいです。

あと健康が大事なので、少し痩せたほうがいいかな(笑)。まだ若いからいいですが、基礎代謝が落ちてしまうとなかなか体重を減らすのが難しく、飲んだ後にラーメンを食べにいったりすると体重は減らないですね(笑)。

新会長としての意気込み

石井：今井前会長が8年間会長された時代というのは、激動の時代というか、すごく変化が大きい時期でした。診断士という立場も激動していた時期で、そのような環境の変化が大きい中で、協会を導いてくださって、感謝しています。

会長となり、最後に決めるのが自分というのは、なかなかのプレッシャーを感じているところですが、今井先生が組織体制の強化を行って、

非常にいい状態で引き継いで大変ありがたいと思っています。

◆「集い、学び、貢献する」という場づくり

石井：千葉県協会のミッションですが、今井先生が会長の時代から「千葉県内の中小企業に行く先を照らし、伴走して、元気にする」というミッションを掲げて取り組んでいます。このバトンは協会全体として受け止めて、今後も継続して掲げて取り組んでいきたいと思っています。

私はそれをもう少しブレイクダウンして、というか、そのために協会として取り組むこととして、集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する「集い、学び、貢献する」という場づくりを千葉県協会ではやっていけないかなと思いますね。

やはり診断士が集まるというところで、すでに価値が生まれると考えています。診断士が集まって交流すれば、互いに刺激を受け、与えて、学びがあって、そして人的なネットワークができてくる。こういった集いの場を作っていくのも、大事なことだと考えています。イベントや研究会もありますし、そういった場で、ぜひ皆さん参加していただけるような形ができればいいなという風に思っています。

学びの場という点について、診断士はずっと学び続ける勉強し続けるということが大事なので、継続して学び続ける環境を作っていくのも大事だと思っています。最近は勉強会を充実させるなどの取り組みをしていますが、今後も学びの場を強化していきたいですね。

勉強会などでインプットしたらアウトプットしていく。それがすなわち地域に貢献していくことに繋がっていき、学んだことを活かしていく。そういった環境作りをこれからも強化していけたらいいなと思っています。



(石井先生・奥 右から2人目) 特産品研修会

◆地域を元気にしていきたい

石井：千葉県協会の地域を元気にしていこうという姿勢は、私個人の思いとしても重なる部分があります。

なぜ地域が元気である必要があるのかというと、地域というのはルーツであり、ルーツというのは「根」という意味があります。自分が根を張り、栄養をもらっているのが地域ということ。だから地域が元気な方が自分も元気でいられると考えています。

ルーツというのは出身地だけではないと思います。もちろん今住んでいる場所もそうですし、過去に住んだ場所もそうですし、もしかしたら住んだことはないけど思い入れのある場所もルーツと言っているかもしれない。

そういった思いで日々の活動しているのですが、私の個人的な思いはさておき、もし協会のミッションに少しでも共感してくださる人がいれば、ぜひ一緒に取り組んでいきたいと考えています。

◆千葉県協会の今後の戦略

—個が強い千葉県協会へ—

石井：今は非常に追い風だと、感じる人も多いと思うのですが、とんでもない向かい風になっ

たこともあるわけです。例えば、政権交代があった時には公的支援が激減したということがありました。

今追い風ですけども、また追い風がなくなることも当然ありうることだと思っています。ここを読み切っていくのはなかなか難しいと思います。窓口相談、専門家派遣、補助金申請支援など、公的支援の予算が現在は大きいのですが、今後も続くかもしれないし、続かないかもしれないと考えています。

仮に公的支援という追い風がなくなった時にはやはり診断士個々の能力が高い必要があると思います。

勉強会や実務に関与することで、今後も能力向上の機会を作り、個が強い千葉県協会でありたいと思います。仮に公的支援がなかったとしても、会員一人一人の高い能力によって地域を元気にする取り組みは継続しなければいけません。

今井：人材の発掘も千葉県協会の大事な取り組みの一つなのですが、コロナ禍になってリアルで診断士同士が会うことが少なくなってしまっています。会員数も増えていて、多くの診断士の方がいるのですが、把握しきれていないところがあり、やり方を工夫する必要があると考えています。よく理事の皆さんには専門家を発掘するというのは大事な役割だから、どんどん研究会等に出てどんな人がいるのか一緒に探そう、ということを行っています。

石井：やはりそのためには集いの場にみんなが出てきたくなるような関係が必要ですね。やはり集まるのが楽しいとかね、そういった場づくりでどんどん人材が発掘していければと思いますね。

オンラインだと、画面越しで「この人、面白そうだ」という人がたくさんいたとしても、残

念ながら、じゃあ飲み行こうよという感じでもないの、この時代にあった工夫をしなきゃいけないかなと思っています。



(石井先生) バンジージャンプにチャレンジ

◆能力や働き方の多様性

石井：ただ、やはりリアルが必要だというのが一方、オンラインだから出会えた人、参加できた勉強会やイベントがあったという方も結構いらっしゃると思います。例えば、家からあまり出にくいのですが、診断士として働きたい人、活動したい人が少なからずいらっしゃると思います。



(石井先生) 親子写真

独立している人だけが診断士の仕事をするわけではないので、企業内の人も自分なりにやり方が見つけられたら良いのではないかなと思います。その意味では我々自身の、この多様性というものを生かしていく必要があると考えています。



編集委員 鈴木 園子



変化に対応するための横断的な新組織 「プロジェクト推進室」

令和4年度、千葉県中小企業診断士協会に新たな組織として「プロジェクト推進室」が設置されました。そこで石井会長とプロジェクト推進室長の石井伸暁理事（以下、石井室長）に、プロジェクト推進室の新設の背景とその役割、今後の活動の方向性について伺いました。またそもそも千葉県診断士協会の現在の組織がどのようになっているか、協会内の「プロジェクト」にはどんなものがあり、どんな取り組みをされているかについてもご説明いただきました。

千葉県中小企業診断士協会の組織

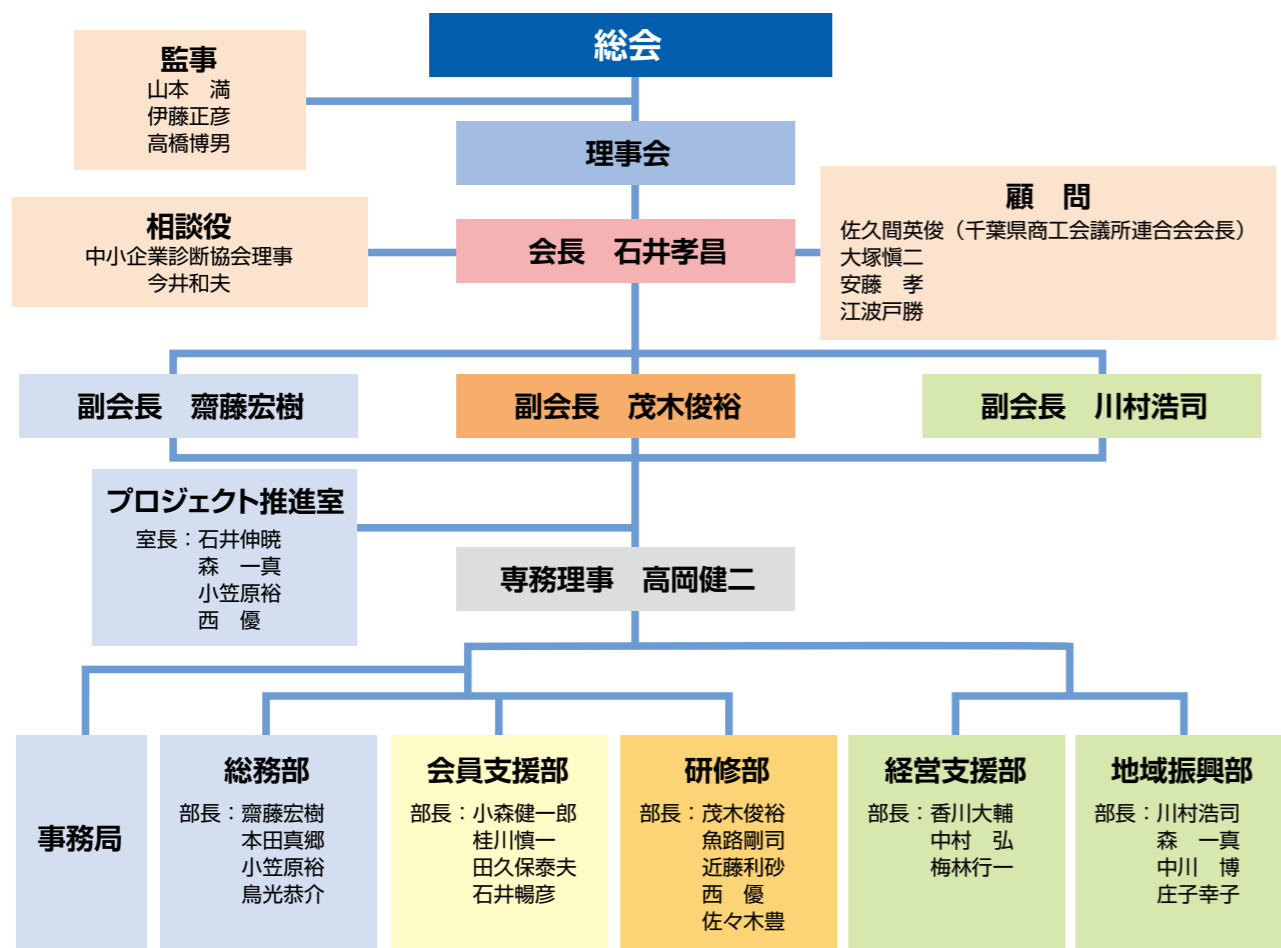
鈴木：まず初めに、現在の組織の全体像に関して改めて教えていただけますか。



石井孝昌会長

石井会長：現在の組織は下の図のようになっています。この図の右下にある「経営支援部」と「地域振興部」は協会の営業の機能を果たしており、その左の「会員支援部」

千葉県中小企業診断士協会 組織図



と「研修部」は会員の資格維持・能力向上・人的ネットワークの形成を図る機能、「総務部」と「事務局」は協会のバックオフィスの機能を果たしています。これら既存の組織に、令和4年度は新たに「プロジェクト推進室」を新設しました。

各部の機能をもう少し細かく説明すると、経営支援部は金融機関と連携して、受託事業の開拓や収益事業の管理のほか、経営革新等認定支援機関としての運営管理などを実施しています。地域振興部は行政・外郭団体や地域の支援機関である商工3団体¹と連携して、各機関からの受託事業の開拓や収益事業の管理を行っています。

会員支援部は、入会促進や会員交流の活性化の他、福利厚生や実務従事事業などの会員サポートに加え、広報的な役割も担っています。研修部は、理論政策更新研修をはじめ各種研修会や新春懇親会の計画と実施などを実行しています。

総務部は、総会、理事会の準備・運営や事務局の管理、各種規程の整備や各種文書の管理、予算や決算をはじめとした会計処理など協会の運営・管理全般のサポートを事務局とともにしています。

プロジェクト推進室は、協会内の様々なプロジェクトをサポート・管理する機能となります。

プロジェクト推進室新設の背景

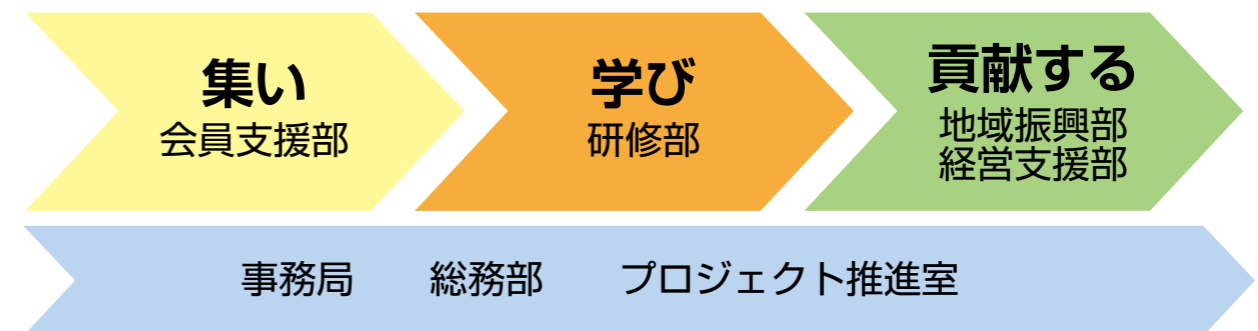
鈴木：このタイミングでプロジェクト推進室を新設されたのには、どんな背景があるのでしょうか。

石井会長：千葉県中小企業診断士協会（以下、協会）は今井前会長時代から「千葉県内の中小企業の行く先を照らし、伴走して、元気にする」というミッションを掲げ、「千葉県内の中小企業支援にとって欠かせない存在となる」という目標・ビジョンを設定しています。それを実現するために「集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する」という取り組みをしています。取り組みに各組織を当てはめると、下記のイメージになります。

「集いの場をつくる」に関しては会員支援部に担当してもらい、「学びの場をつくる」については研修部に実施してもらっています。「地域に貢献する」については、我々の地域貢献は主に経営支援ですから、地域振興部と経営支援部が担っています。従来これらの活動を支える支援機能として総務部と事務局がありました。

昨年度まではこれらの部で協会運営をしていたのですが、実は以前から、部などの協会組織だけでは対応できないような横断的な取り組みとして複数のプロジェクトが存在しており、プ

「集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する」取り組みイメージ



¹商工3団体：商工会議所、商工会、千葉県中小企業団体中央会（中小企業組合の設立・運営、中小企業の経営革新等をサポート）

プロジェクトの運営を支援・管理する仕組みの必要性を感じていました。そこで、今年度新たにプロジェクトチームの活動を支える「プロジェクト推進室」を発足して、体制を強化しました。

プロジェクトチームの現状

鈴木：プロジェクト推進室はプロジェクトチームの活動を支えるとのことですが、そもそもプロジェクトチームにはどのようなものがあるのでしょうか。

石井会長：現在10のプロジェクトが走っています。プロジェクトチームには大きく分けて企業への支援メニューを開発するものと、協会内の環境整備や会員の技能向上を図ったりするような内部向けの活動を行うものがあります。前者には「千葉県中小企業再生支援協議会プロジェクトチーム（以下、PT）（通称Aプロ²）」や「千葉県経営改善支援センターPT（通称Bプロ³）」、外部のホームページ受注を目指している「HP制作受注PT」や補助金申請に係る支援を行う「補助金申請支援PT」があります。内部向けの

活動を行っているものには、事業承継支援専門家養成研修（事業承継マスターコース）を実施している「事業承継PT」や協会としてIoT関連のソリューション開発を行っている「IoT導入支援PT」、今回のkintone（キントーン）導入を推進した「業務システム導入PT」、協会のホームページなどを管理運営する「協会HP・動画活用PT」、会員の能力開発を行う「診断技能向上勉強会PT」と「『診断士の日』推進PT」があります。

既存の組織だけではできない事業を担っているのがプロジェクトチームで、例えばBプロを例にとると、経営支援部や地域振興部の営業メンバーが金融機関や千葉県中小企業活性化協議会とのフロントに立って折衝するのですが、実際に受注するためには、契約書や申請書など各種のフォーマットの整備の他、会員向けの説明会や勉強会を実施しなければなりません。これを営業メンバーだけで実施することはできないので、その取り組みをサポートする必要があります。こうした取り組みのために、部を横断した組織としてプロジェクトチームがあります。

プロジェクトチーム

主に企業へ支援メニュー開発

- ・千葉県中小企業再生支援協議会PT(Aプロ)
- ・千葉県経営改善支援センターPT(Bプロ)
- ・HP制作受注PT
- ・補助金申請支援PT

主に環境整備や技能向上活動

- ・事業承継PT
- ・IoT導入支援PT
- ・業務システム導入PT
- ・協会HP・動画活用PT
- ・診断技能向上勉強会PT
- ・「診断士の日」推進PT

プロジェクトチームとプロジェクト推進室の関係

鈴木：ありがとうございます。既存組織とプロジェクトチームの関係は理解できましたが、プロジェクトチームとプロジェクト推進室はどのような役割分担になっているのでしょうか。

石井会長：現在多くのプロジェクトが走っていて、これまではそれぞれのプロジェクトチームが個別に進捗管理や運営を行っていました。ただ近年協会自体の規模が急速に大きくなり、周囲から協会に対する期待も高まるなか、プロジェクト全体を管理して、リソースの配分を適正に行う必要が高まってきたため、プロジェクトを取りまとめて運営する機能としてプロジェクト推進室を設置しました。

プロジェクト推進室の役割

鈴木：それではここからは石井室長にプロジェクト推進室についてお伺いします。まずは概要について教えてください。

石井室長：先程、石井会長からもお話があった通り、組織横断的に活動をしている各プロジェクトは、それぞれがプロジェクトリーダーのもとで管理・運営を行ってきまし



石井伸暁室長

た。最近では、協会の事業規模が大きくなり、会員数も増え、多岐に渡るプロジェクトが立ち上がるようになりました。そこで、各プロジェクトの活動を有機的に管理する必要が出てきたのです。

プロジェクト推進室では、各プロジェクト

チームと連携しながら、後方支援を行っています。プロジェクトの活動全般に渡る環境整備を行っている。こんなイメージをもっていただくとわかりやすいと思います。

例えば、各プロジェクトが開発した支援メニューを外部から受託する際に必要となる書類作成といった協会内のツール整備を担当します。また、新たなプロジェクトチームの立ち上げをするような場合には、必要となる体制の整備や会員診断士のアサインといった組織作りを支援します。

いずれの取り組みに関しても、該当するプロジェクトチームのリーダーをはじめ、プロジェクトに関わる各部の理事や担当者と連携をしながら進めます。協会としても、個々のプロジェクトと協会全体のベクトルをまとめるため、こうした連携や情報共有が重要になります。そのためプロジェクト推進室のメンバーは、各部からの兼務で構成されています。

鈴木：活動内容とメンバー構成に関して概要をご説明いただきましたが、もう少し詳しく伺いたいと思います。まずは活動内容に関して具体的にお教えいただけますか。

石井室長：後方支援に関しては、それぞれのプロジェクトの進捗具合を把握して、必要な場合に、その円滑な推進や課題解決の支援を行っています。

先ほど申し上げた各プロジェクトに付随する協会内のツール整備では、例えば、新たな補助金制度の公募開始に際して、必要となる支援契約書や協会内の手続に用いる書類を作成しています。また書類の整備だけでなく、支援メニューを会員に周知する説明会や勉強会も開催しています。補助金や経営改善に関する勉強会だけで

²千葉県中小企業活性化協議会の支援事業のうち旧千葉県中小企業再生支援協議会が行っていた再生支援に対応したプロジェクト。

³千葉県中小企業活性化協議会の支援事業のうち千葉県経営改善支援センターが行っていた「経営改善計画策定事業」（通称405事業）に対応したプロジェクト。

も、令和4年度は「補助金申請支援勉強会」「経営改善計画作成支援専門家説明会」「経営改善計画作成支援勉強会」「実学に学ぶ経営改善・事業再生」を実施しました。

新たなプロジェクトの立ち上げに関しては、例えば、県内の公的企業が展開する事業に対して協会に支援要請があった場合、対応に不可欠な人材の把握を行い、会長、各部の部長、他のプロジェクトチームとの連携や情報共有の中で必要な支援体制や仕組み作りを進めます。実際の支援体制を構成する会員診断士のアサインには、能力や経験の他、協会内の中長期的な人材育成の視点を含めて依頼をするようにしています。

プロジェクト推進室のメンバー

鈴木：お話を伺っていると、非常に多岐にわたりプロジェクトを支える「縁の下の力持ち」的な役割をされているのがよくわかりました。それでは次に、その活動を支えていらっしゃるプロジェクト推進室のメンバーをご紹介いただけませんか。

石井室長：私の他に、総務部の小笠原裕さん、地域振興部の森一真さん、研修部の西優さんに兼務メンバーとして参加いただいています。このお三方に加わっていただくことで、連携や情報共有を円滑に行うことが可能となっています。



プロジェクト推進室の皆さん
左から石井室長、森一真さん、小笠原裕さん、西優さん

鈴木：メンバーの方の中には私自身も様々な場面でお世話になっている方もいらっしゃる、多くの会員の皆さんもご存じの方々ばかりだと思います。私が言うのも大変僥越ですが、まさにプロジェクト推進室の役割に適任の方々ではないかと思います。

今後のプロジェクト推進室

鈴木：それでは最後に、今後のプロジェクト推進室の取り組みや意気込みについて教えてください。

石井室長：昨今、企業を取り巻く環境が激変する中、国や自治体から多様な中小企業の支援制度が出てきています。その中で、今後注力したいと考えていることが二つあります。一つ目は、中小企業の支援メニューを開発するプロジェクトに欠かせない取り組みとして、支援契約書や制度利用のための申請書といったツール類の円滑な整備です。これは地味な取り組みに見えますが、個人が会員として組織化された診断士協会にとって、とても重要なものと考えています。金融機関や地域の支援機関と連携して中小企業の支援を提供する訳ですから、組織としてこうしたツールは必ず必要となってきます。また、AプロやBプロなどの経営改善や補助金に関連するプロジェクトが担う支援メニューは、今後ニーズがますます増加するものと思われます。こうした支援を求めている企業を協会に繋いでいただくのは、多くが金融機関や支援機関です。また、支援制度を利用する窓口となるのは、例えば、千葉県中小企業活性化協議会といった公的機関です。協会が組織としてこうした外部機関と良好な連携を保てるのは、当然に必要な事

務的部分の整備があつてのものです。もちろん、会員の皆さんが円滑に実務に入れるようにするためにも必要な取り組みになります。

二つ目としては、中小企業支援に必要な能力開発の環境作りに力を入れていきたいと考えています。診断技能向上勉強会PTとも絡みますが、会員の診断士が外部機関からの要求にしっかりと応えていくためには、支援能力の向上に特化した学びの場が必要です。

近年、私たちには、単なる診断業務や計画策定支援に留まらず、経営者との対話を通じた課題抽出にはじまり、その解決に向けた具体的なサポートに取り組む『伴走型支援』が求められています。それに対応する勉強会として、令和4年度には、「伴走支援勉強会」や「伴走型支援に必要なコミュニケーションスキルを磨く勉強会」を実施しました。いずれも、多くの会員の方に参加いただいています。「千葉県内の中小企業支援にとって欠かせない存在となる」この協会の目標・ビジョンの実現のためにも、プロジェクト推進室の活動が今後も会員のみならず

の支援能力向上の一助となり、各プロジェクトの成果を最大限高めることに貢献する、こんな存在でありたいと考えています。

鈴木：ありがとうございます。縁の下の力持ちとして、今後もプロジェクトの推進を強力に実施していける意気込みを伺うことができました。

●お話を伺って

これまでプロジェクト推進室は勉強会などを主催されている組織なのかと大変な誤解をしていました。今回お話を伺って、プロジェクトに関わる様々な環境整備を陰に日向に実施されていることが非常によくわかりました。またこの機会に協会の組織やプロジェクトについても教えていただき、大変勉強になりました。

今後、私を含めた会員が協会で活躍する上で、プロジェクト推進室は重要な役割を担っていただけるものと期待しています。これからのプロジェクト推進室の活動にも注目していきたいと思っています。



編集委員 鈴木 直人



退任副会長、新任副会長挨拶

新体制発足に伴いバトンの引継ぎが行われました！

石井孝昌新会長体制発足に伴い、副会長も新体制となりました。今まで千葉県協会を牽引いただいた伊藤副会長、山本副会長、お疲れさまでした。また、新たに副会長になった3名を紹介いたします。

退任副会長のご挨拶



前副会長
伊藤 正彦

昨年6月の定時総会におきまして、副会長の職を最後に千葉県協会の理事を退任いたしました。理事としての11年余り、大変お世話になりました。

私は、平成23年5月、中小企業診断協会千葉県支部の理事に就任し、翌年、中小企業診断協会の組織変更に伴い、千葉県支部が一般社団法人として独立する際に、設立発起人の一人として、当協会の設立に参画をさせていただきました。

協会設立当初は、会員部長として会員増強のミッションが与えられました。事業活動の財源として会費収入への依存度が高かった当時、当協会にとって会員増強は重要なテーマの一つでした。

平成26年6月から令和4年6月までの4期8年は、会計部長として予算・決算を担当しましたが、最後の1期は副会長と会計部長を兼務いたしました。

直前期の当協会の受託事業収入は2億7,000万円、会員数は現在450人を超えており、協会設立時の受託事業収入1,170万円、会員数149人であったことを考えると、協会設立以来の急成長ぶりが窺えます。

皆様のご協力のお陰で、理事としての職務を大過なく全うできましたことに、改めて感謝申し上げます。今後は、監事の立場から当協会の更なる発展に微力ながら貢献できるよう努めてまいります。



前副会長
山本 満

昨年6月の社員総会をもちまして副会長を退任いたしました。平成24年からの10年間、務めさせていただきました。任期中はいろいろな方に様々な形で協力、ご支援等を賜りまして、それがあったからこそここまでやってこれたものとの想いであり、感謝の気持ちでいっぱいでございます。未熟な点や、至らぬ点は、多々あったであろうかと考えますが、少しなり会員の皆様、ひいては千葉県の中小企業の皆様の一助になれば、という想いで取り組ませていただきました。

この10年、千葉県協会は会長の卓越したリーダーシップのもと理事の皆様の献身的な取り組みにより、会員数も大幅に増加し、それに伴った管理態勢の構築も整備されてきたものと考えます。そのような成長に寄り添い任期満了をむかえられたことを大変感慨深く思います。

今後は監事として拝命いただいております。いままでと立場は変わりますが、先程の想いは変わるものではないです。はなはだ微力ではございますが、少しなり千葉県協会の今後のさらなる発展に寄与できますよう努めていきたい所存でございます。今後とも引き続きまして、ご指導、ご鞭撻を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任副会長のご挨拶



副会長
齋藤 宏樹

皆さん、こんにちは。令和4年度より副会長に就任いたしました齋藤宏樹と申します。どうぞよろしくお願い致します。担当は、総会、理事会の準備・運営、事務局の管理・運営、各種規程の整備といった総務部門と、協会の予算作成と予算管理、決算、税務申告といった会計部門になります。メンバーは、総務部門は本田理事、小笠原理事、会計部門は鳥光理事、事務局は、高岡専務、小川さ

ん、阿部さん、田邊さんです。石井新会長を中心に、メンバーの皆さんとともに、千葉県協会発展のため、微力ながら精一杯努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

私が千葉県協会に入会したのは2009年です。当時は全体でも会員数が約120名で私の同期入会も7名でした。新入会員懇親会は「きぼーる」という施設で研究発表を行い、和室で懇親会を開いていただきました。諸先輩の先生方より、暖かくお迎えしていただきとても感激しました。千葉県協会は、とてもアットホームで何でも相談できる素晴らしい組織です。是非、会員の皆様同士で交流を深めていただくとともに、お互いに切磋琢磨して、千葉県内の中小企業の皆様が、元気に発展し続けていけるよう頑張っていきたいと思います！



副会長
茂木 俊裕

令和4年度より副会長に就任しました茂木俊裕です。所管は「研修部」と「会員支援部」です。研修部長を兼務しています。

石井会長の新体制の下、千葉県中小企業診断士協会が担う機能として、「集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する」が掲げられています。

「集い」は会員支援部が、「学び」は研修部が、この機能の発揮を求められています。

研修部では、魚路理事、近藤理事、西理事、佐々木理事が担

当し、理論政策更新研修、生産性向上支援訓練（ポリテクセミナー）、協会研修、研修旅行、新入会員研修会、新春懇親会等を行っています。令和5年度は「南関東ブロック スキルアップ研修」を開催します。また、会員から研修部員を募り、一緒になって企画・運営をしています。

会員支援部では、小森部長、桂川理事、田久保理事、石井暢彦理事が担当し、春・秋の診断士まつり、アンフィニ発行、メーリングリストの管理・運営、研究会の管理、会員加入促進、福利厚生、実務従事事業、プロボノ事業等を行っています。研修部員と同様、診断士まつり実行委員やアンフィニ編集委員も会員から参加者を募り、一緒になって企画・運営をしています。

このように、「集い」、「学び」に向け、各種イベント等を取り揃えています。

会員の皆様にはぜひ積極的にご協力・ご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



副会長
川村 浩司

昨年6月の総会で副会長に任命いただきました川村でございます。改めて経営支援部と地域振興部の役割と今後の方向性について皆様にお伝えできればと考えています。

●経営支援部について
メンバーは香川部長、中村(弘)理事、梅林理事の3名の体制で県内金融機関に対する営業活動を行っています。現在までの活動の成果としては千葉県信用保証協会および県内地方銀行3行を含むほとんどの金融機関と連携を取れるまでになってきています。

業務内容については、多くの会員に皆様にご協力をいただいております、千葉県信用保証協会の専門家派遣や各金融機関からご依頼をいただく、経営改善計画の策定支援と事業再構築補助

金およびものづくり補助金の申請支援などになります。また今後については、各金融機関が主催しますセミナーなどの受託も行ってみたいと考えています。

●地域振興部について
メンバーは川村と森理事、中川理事、庄子理事の4名で21の商工会議所および40の商工会と千葉県商工会議所連合会および千葉県商工会連合会に対する営業活動を行っています。

近年は商工会および商工会議所単会で主催される経営相談会や千葉県商工会連合会での電話相談窓口などに多くの皆様にご協力をいただいている状況になります。次年度以降についても、引き続き窓口相談や各種セミナーおよび創業塾などの受託を行える様に努力をさせていただきます。

●今後について
会員の多くに皆様におかれましては、新たな支援策や各種セミナーコンテンツなどの作成などに力を入れていただき、当協会が支援機関の皆様幅広くメニューが提供できる様にしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



石井会長からのコメント

伊藤前副会長・山本前副会長、これまでお疲れさまでした。そして本当にありがとうございました。伊藤前副会長は私にとって一緒に経営改善支援事業など様々な取り組みを推進した仲間であり、また人生の先輩として様々なアドバイスもいただきました。協会運営においても深い知見で我々を導いてくださいました。最近お酒は控え気味なのですが、ぜひまたお付き合いいただければと思います。山本前副会長は温和で優しい雰囲気ですが、実はギターを操りシャウトを響かせるミュージシャンとしての顔をお持ちです。千葉県協会ですらトラブルが発生した時には体を張って我々を守ってくださった「戦

う人」でもあります。ぜひまたライブにお邪魔させてください。お二人共、現在は千葉県協会の監事を担当していただいております。引き続き大所高所からアドバイスをいただければ幸いです。

齋藤副会長・茂木副会長・川村副会長は、私にとって共に汗をかいてきた同志であり、頼りになる兄貴!動き方や考え方が三者三様、私も入れば四者四様で、中小企業診断士の多様性の縮図のようです。一緒に千葉県協会を盛り上げていきましょう!長い付き合いになってきましたが、これからもよろしくお願い致します。



編集委員 桂川 慎一

キラリと光る！診断士の武器はいかに!?

～経営のお悩みを解決するため、日々刃を研ぐ～

<紹介者>

診断士歴2年目：柏村 斉さん（以下 柏村）

診断士歴1年目：杉谷 健太さん（以下 杉谷）

診断士歴1年目：橋居 修三さん（以下 橋居）

はじめに

診断士生活を送る中で、「自身の武器は何か?」「どう作るか?」と悩まれている方もいるのでしょうか。今回は「診断士の武器」をテーマに、その「キラリと光る武器」を探っていきます。

1. 柏村 斉さん（診断士歴2年目）

最初は2021年に中小企業診断士の登録をし、現在は企業内診断士でありながら、プレゼン大会や診断士の日など協会内でもご活躍されている柏村斉さんです。



<プロフィール>

土木系の大学院卒業。建設業界のエンジニアとして働いた後、コンサルファームに転職してシステム構築・導入や経営戦略策定支援等をしている。

① 診断士を目指したきっかけ

—中小企業診断士を目指した”きっかけ”というのがありますか。

（柏村）コンサルファームで働いているため経営に関する知識はあるのですが、その知識を「体系的に学びたかった」というのが最初のきっかけです。また、コンサルタントとして働いていることを資格という形で証明したかったのもあります。正直なことを申し上げると、あまり取得してからのことを考えていなかったんですね。ただ、合格した後に色々調べてみたり、診断士として動き始めたりすることによって、考えが変わっていきました。

—実際、どのように変わったのですか。

（柏村）こんなに「可能性のある資格」とは思っていなかったのです。取得前は、仕事へのイメージがつきづらく独占業務もないことから、どれだけ活用できるのかわかりませんでした。しかし、診断士協会内で仕事受注や研究会など活動する中で、仕事内容や出会う人が変わり、私自身の考えも変わっていったように感じます。合格時は漠然としていたイメージが活動することによって明確化され、自分のしたいことが現実味を帯びてきたというところでしょうか。



② 武器は「診断士×建設業×IT業務」

—ズバリ、柏村さんの武器は何でしょうか？

（柏村）まず「建設業界に明るい」ところが、自分の強みだと思っています。私自身が建設業界の出身であり、特殊な業界であるため内容を知っているのは差別化要因になるのかと。土木系の大学院を卒業していることもあり、土木インフラの構想・計画策定や設計業務の経験があります。次に「システムやWEBなどのIT業務ができる」です。現在の仕事でもBPR・システム導入や土木インフラ管理システム構築支援を行っていますし、複業としてホームページ制作やSEO対策などのWEB業務を10年間で100件以上してきました。

—プレゼン大会では、建設業界ひいては国全体の安全まで考えられていることが印象的でした。

（柏村）日本の土木インフラは、老朽化が進んでいます。例えば、一般に寿命といわれる50年を超える橋梁は、2035年に65%を超えてしまい、寿命を超えると崩落のリスクが高まります。これら土木インフラを守っていくのが建設会社ですが、大手のゼネコンが受注しても、現場を動かしているのは、地元の中小企業の建設会社です。建設業界は、建設会社の数も建設業就業者数も減少傾向にあります。建設業の廃業が続き、技術を持つ「人」がいなくなると、日本のインフラを守れなくなってしまいます。土木業界出身として、現場から建設業界を支え、中小建設会社の経営改善を通じて日本の土木インフラを守りたいと考えています。

③ これから取り組んでいきたいこと

—「診断士×建設業×IT業務」の武器を活かして、これから取り組んでいきたいことはありますか。

（柏村）建設会社の経営改善を進める中で、原価管理・予実管理がボトルネックになることを感じ、自身のこれまでの建設×経営×ITの経験を活かし、中小建設会社向けの原価管理・予実管理のクラウドサービスを始めたいと考えています。建設会社の経営管理をする上で大事になるのは「お金の見える化」です。財務諸表や月次試算表では経営状況が見えにくいことから原価管理が必要になってくるのですが、工事ごとの原価を会社全体の数字に落とし込むとなると手間が増えるだけでなくミスも起こりやすくなってしまいます。

—たしかに。工事の件数が多いほど大変ですね。

（柏村）その業務をシステム化しクラウドサービスで提供することにより、一回の入力だけで現場と経営者の両者が必要な情報を把握することが可能になります。そもそも原価を管理する文化のない会社も多いので、コスト意識が高まるといった付随的効果もあります。日本におけるインフラの安全性を維持するためにも、建設会社が一社でも多く経営改善をする必要があ

ると感じています。しかし、私一人の力では難しいことから、このサービスと診断士を始めとした経営支援者のネットワークによって日本を守っていきたいです。

2. 杉谷 健太さん（診断士歴1年目）

続いて、2022年に中小企業診断士の登録をし、千葉県産業振興センターとベンチャー企業に勤務する杉谷健太さんです。



<プロフィール>

新卒で日本ハムグループに入社。商品開発に従事した後、千葉県産業振興センターおよびエリー株式会社勤務。

① 診断士を目指したきっかけ

—中小企業診断士を目指した”きっかけ”というのがありますか。

（杉谷）元々はMBA取得が入口でして、私が入学した法政大学の養成課程では、中小企業診断士とMBAが同時に学べたのです。偶然ですが、私が入学した2021年は食品と農業のマーケティングを専門とする小川孔輔教授（現在は法政大学名誉教授）の任期最後の年で、小川先生の指導の下、「カイコの食用化」を研究テーマに取り組みました。MBA取得を考えたのは、単純に学ぶことが好きだったんですね。中小企業診断士も常に学び続けなければならない仕事ですし、自分で時間をコントロールできるのが魅力の一つだと思います。

—大学時代は農学部だとか。現在勤務のベンチャー企業も昆虫食を取り扱っていますよね。

（杉谷）農学部・大学院時代は、理化学研究所の研修生としてカイコの分子生物学的な研究に取り組み、新卒にて大手食品会社に入社しました。会社での最終キャリアは工場の商品開発部門として、大手量販・コンビニ向けの畜肉の製品や大豆ミート等を開発した経験があります。現在勤務しているエリー株式会社は、MBAの研究テーマで扱った「カイコの食用化」を事業に取り組みしていて、そのCTO（技術責任者）を担当しています。



② 武器は「診断士×フードエンジニア×ベンチャー支援」

—ズバリ、杉谷さんの武器は何でしょうか。

(杉谷) まず、大学・大学院で学んだ経験と大手食品メーカーでの商品開発のキャリアを考えると、「フードエンジニア」というのが武器の一つかと。大規模生産を前提とした商品開発は、厳密な原価計算など多岐に渡る精緻な商品設計が求められます。中小企業の方々とお話しさせていただくと、商品検討段階から正確な原価シミュレーションをしている企業は少ないように感じます。もう一つの武器は、「ベンチャー支援」です。ベンチャー企業で働いて思うことは、「中小企業診断士としての活躍の場は、ベンチャー企業にも数多くある」ということです。

支援機関にて中小企業の経営者とお話すると、営業や生産管理、財務経理、人事など各分野における専門的な支援が求められていると感じます。一方で、ベンチャー企業の経営者は大手企業出身者もおられ各自が持つ専門性は高いものの、経営全般については詳しいわけでは必ずしもありません。そのようなベンチャー企業にこそ、私たち中小企業診断士が有する経営に関する幅広い知識と経験が役立つと思います。また、意思決定のスピード感を重視するベンチャー企業は、公的支援との接点が少ないため、ベンチャー企業と公的支援を繋ぐことができる中小企業診断士になりたいですね。

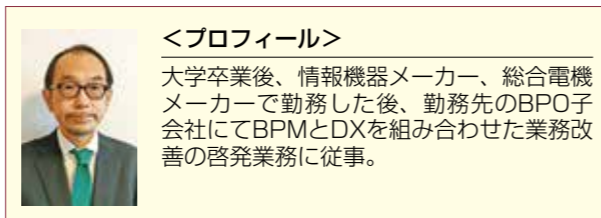
③ これから取り組んでいきたいこと

—「診断士×フードエンジニア×ベンチャー支援」を武器に、これから取り組んでいきたいことはありますか。

(杉谷) 引き続き、現在勤務しているエリー株式会社にて「ベンチャー支援」と、千葉県産業振興センターにフードエンジニアの側面での「中小企業支援」をしていきたいですね。また、発表の場があるのであれば、食品に関する知識やベンチャー企業で働いている経験なども発信していきたいと思います。

3. 橋居 修三さん (診断士歴1年目)

最後に、杉谷さんと同じ診断士歴1年目であり、企業内診断士で豊富な経験を持ちつつ、協会行事にも積極的にご参加いただいている橋居さんです。



<プロフィール>

大学卒業後、情報機器メーカー、総合電機メーカーで勤務した後、勤務先のBPO子会社にてBPMとDXを組み合わせた業務改善の啓発業務に従事。

① 診断士を目指したきっかけ

—中小企業診断士を目指した”きっかけ”というのがありますか。

(橋居) 遡りますと30年近く前、新卒でIT機器メーカーに営業職で入社し、4年が経過した頃でした。その会社ではIT機器の営業以外にエンジニア(SE)の受託業務も行っていました。あるきっかけにより、社長から「君は技術職の方が、今より活躍できる。自身に技術という柱があった方が良いタイプだ」と、技術職へと職種転換させてくださったのです。その瞬間から、エンジニアとして、私の職業人生は大きく開かれました。一大転機です。当時、その社長とのやりとりの中で「経営者はすごい、経営に関わっていききたい」と憧れるようになりました。そこから「将来は中小企業診断士になりたい」と願うようになり、ビジネスモデルやフィナンシャル等も自分なりに勉強し始めたのです。20代で中小企業診断士を目指し、30-40代は、がむしゃらにSEの仕事をしてきたのもあって、50代で中小企業診断士を取得しました。

—新卒で入社した時の社長さんの影響が非常に大きいんですね。

② 武器は「診断士×プロジェクト管理×BPM」

—ズバリ、橋居さんの武器は何でしょうか。

(橋居) まず中小企業さまの経営全般については、中小企業診断士の資格と経験を積んでいくことで対応していきます。その他の「診断士+〇〇」については、「プロジェクト管理」と「BPM(業務改善)」です。転職後にSEとして、情報通信の大きなプロジェクトを任されました。PMとして100人ほどの方々と協力しながら働いたことがあります。立ち上げから維持管理まで経験し、米国PMI PMP®の資格も取りながら、プロジェクト管理のスキルを身に付けました。トータルでは10年以上、プロジェクト管理の仕事をしてきたことになりすね。

—100人の方々と協力して一つのものを作るって大変ですね。それに長期間。

(橋居) SEなどの仕事を約20年続けた後に、数年前、グループ内の子会社に異動したことで、BPM(Business Process Management)とDXを駆使した業務改善の仕事が始まります。私は、暫くの間、現場の業務責任者を支援する立場で、製造部門のバックヤード業務について、システムによる見える化や自動化を推進しておりました。その経験を元に、現在は、経営戦略部門のBPM推進部門に所属しております。そこでは、バックヤード業務をシステム設計・開発・保守運用をする各チームが活躍する一方で、私の啓発チームでは「ユーザーへのBPMの啓発活動」「BPM化に向けたルール作り」「ドキュメント整備」「社内ポータルサイトの立ち上げ・運営」などの活動を行っています。大きな組織での取り組みではありますが、BPMを中小企業さまで活用できたら効果はあると感じています。

③ これから取り組んでいきたいこと

—「診断士×プロジェクト管理×BPM」を武器に、これから取り組んでいきたいことはありますか。

(橋居) 勤務先のパラレルワーク制度を活用し

ながら、経営改善を切り口にセミナー・補助金支援・専門家派遣・窓口相談など、千葉県中小企業診断士協会の診断士活動をしていきたいと考えています。最近スキルアップ研究会に参加した際、専門家派遣の話をお聞きしてエントリーを即決しました。他にも、リモート懇談の場などにおいて、診断士業務について先輩方から知見や経験談をたくさんお伺いし、大変勉強になっています。

—プロジェクト管理や業務改善などを中小企業支援としてコンテンツ化することはできないのでしょうか。

(橋居) 十分にできると考えています。プロジェクト管理や業務改善の一般的な知識・スキルについて、中小企業向けにアレンジし、生産性向上や新規事業の成功につなげていきたいですね。



石井会長よりコメント

三者三様のビジョンが、中小企業診断士の自由度の高さを表していて素晴らしいですね。これまで培ったスキルと中小企業診断士としてのスキルを掛け合わせると、個性的で面白い取り組みになりそうです。私、個人的には変わった人が大好きなんです。ぜひ今度お会いした時にみなさんのノウハウを教えてください！

この3名以外にも千葉県協会には面白い人がたくさんいらっしゃいますので、どんどん情報交換をしていきたいと思っています。



編集委員 庄子 幸子

2022秋の診断士まつりコラボ企画



「石井孝昌新会長に聞く！」の裏側

千葉県中小企業診断士協会では、特に新入会員の方や入会希望者の方に当協会を知っていただく場として「診断士まつり（春・秋）」を実施しています。

10月に開催された秋まつりでは、2022年6月に会長に就任された石井孝昌会長を盛り上げようと、まつり実行委員とアンフィニ実行委員がタッグを組み、「石井孝昌新会長に聞く！」という企画を考えました。

石井新会長に1日密着取材して動画を制作し、当日は動画の視聴と石井会長に会員からの質問に答えていただくという内容のものです。

その時の動画は千葉県中小企業診断士協会のYouTubeチャンネルで視聴いただけます。動画はこちらです。



今回は密着取材や動画制作の裏話をご紹介します。

企画の背景

今回のアンフィニは新会長となった石井孝昌会長を会員のみなさんに知っていただきたいという想いをベースに内容を検討していました。

そんな中、同じ会員支援部の企画である秋まつりとコラボができないかというのが企画の発端です。

動画制作はオンライン化が進む中、中小企業でも会社紹介やSNSでの発信など、活用する機会が増えてきています。

そのため、動画編集のスキルは私たち診断士も身に付けておくと役立つ場面があると思い、この機会にチャレンジすることにしました。

企画の検討

動画を制作するにあたり、まずはどんな動画にするか検討しました。

おまつりで視聴するため、堅い内容よりも面白いもの、ただしこれから入会を検討している方や会員のみなさんの役に立つもの、という条件で考えた結果、テレビのドキュメンタリー風にして会

員が知りたいことをインタビューするというアイデアが出ました。

この時石井会長が車を運転しながら質問に答えている画や、事業者さんと打合せしている風景がイメージとして浮かんでいました。

取材の様子



最初の取材は、協会の事務所で石井会長と事業者様が打ち合わせをしている様子の撮影です。

動画では短く編集していますが、実際は1時間くらいの打ち合わせでした。

撮影はiPhoneをじっと構え、ところどころ撮影させていただきました。

この時は販促についてのご相談がメインで、事業者様と一緒にWEB系の仕事を担当されている方が同席していました。

販促費として補助金を活用したいというご要望で、石井会長が事前に申請書を作成して内容の確認と制度の説明をされていました。長くお付き合いの事業者さんということでとても打ち解けた雰



囲気で、打ち合わせはスムーズに終了しました。

取材ではありますが、石井会長の打ち合わせの場に立ち合い、お話している内容をその場で聴くという、とても貴重な経験ができ、大変勉強になりました。

その後は事前に準備していた質問に答えていただきました。

診断士を目指した経緯、独立のきっかけ、仕事で楽しいことや大変なこと、どんな生活をしているかなど、たくさんの質問に答えていただきました。その時の内容は動画に入っていますので、ぜひご覧ください。

最後に事務所に入ってくる場面の撮影をしました。動画では最初に流れていますが、実は後から撮影しています。



いかにも朝来られた感じで登場していただきました。



事務員さんからは「先生演技派!」という声も上がっていました。

その後、昼食のお蕎麦屋さんに向かう途中、事業者様のお店に立ち寄り、取材していた私たちへお土産を買っていただきました。

車中では、予定していた通り運転しながらインタビューに答える場面の撮影です。いかにもドキュメンタリー風の良い画が撮れました。



編集後の動画：車内インタビュー

車中でお聞きしていたのは、診断士として独立すべきかどうかということについてのご意見です。石井会長のお話では、千葉県協会は専門家派遣や窓口相談など、副業でも担当できる仕事があるので、そういった仕事をやってみて、楽しいと思えるか、肌に合っていると思えるかなどを考えて独立を検討すると良いのではないかとということでした。

独立だけが診断士のゴールではなく、会社の中でも生かせる場はあるので、診断士としてどういった活動をするか、その人の看板で働くことができればいいのではないかとのお話をお聞きしました。

気になった方はぜひYouTubeをご覧ください。

そんな良いお話を聞きながら撮影していたところ、実はこの時、動画の撮影をミスしていました。

撮影開始と停止ボタンを混同していて、撮れていると思った場面が撮れていませんでした。なんとか編集はできましたが、一発勝負の撮影は、ひとりではなく、複数人で行った方が安心だと学びました。

お待ちかねの昼食は石井会長行きつけのお蕎麦屋さん「うぶすな」です。口コミ評価も地域で1位の評判のお店です。



<うぶすな>千葉県花見川区さつきが丘2-29-13



いただいたメニューは天せいろです。天ぷらが
ぎらぎらに乗って先に出てきます。

おいしい!!!!

さくさくの天ぷらもお蕎麦も大変美味しくい
ただきました。こちらも石井会長にご馳走になり、
取材というよりおもてなしをしていただいた1日
が終了しました。

石井会長、本当にありがとうございました。



編集後の動画：エンディング

動画の編集

密着取材の後は動画の編集です。ここからは動
画の編集方法についてお伝えしていきます。

◆編集ソフトの選択

まず、私の経験値ですが、これまで動画編集は

ほとんど経験がありません。そのため、どんなソ
フトを使えば良いかから検討を始まりました。

選ぶ基準としたのは、次の3点です。

- 無料で使える
- 使い方が簡単
- 複雑な機能は不要
- Windows対応

その結果、ソフトをダウンロードせずにクラウ
ド上で作業ができる「Canva」と「Flex Clip」、ダ
ウンロードして使うソフトに「Shotcut」を選びま
した。

AppleのMacを使っている場合は「iMovie」が
使いやすいかと思いますが、私はWindowsなので
「Shotcut」を選んでいました。

なぜ3つのソフトを使っているかという、今回
の動画はTVのドキュメンタリー風にしたとい
う目的に必要だったためです。

TVのようなオープニング、エンディングを入
れたいと思っていましたが、自分で作成するのは
難易度が高いため、元からあるテンプレートが活
用できる「Canva」と「Flex Clip」を選定しまし
た。

それ以外は色々な機能がある「Shotcut」を使
い、テロップや細かいカット、音楽を入れて音量の調
整、早送りなどを行っています。

機能としては、「Canva」と「Flex Clip」はかな
り基本的なことのみにですが、元からあるテンプレ
ートに動画を入れたり、簡単なテロップを入れる程
度は可能です。

今回は使用しませんが、FacebookやInstagram
へ投稿する動画のテンプレートもあるため、初心
者がそれなりの見た目の動画を簡単に作るのに適
していると思います。



(出典：canva動画のテンプレートページ)



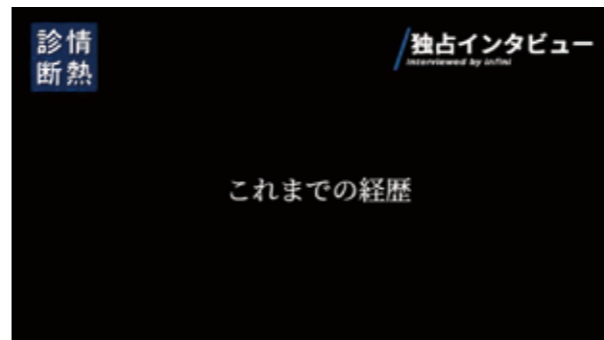
canva

Flex Clip

◆編集作業

「Canva」と「Flex Clip」については、パワーポ
イントが使える場合はかなり近い感覚で使えます。
写真を入れるようにダウンロードした動画を挿入
するイメージです。

今回の動画では、次の4箇所Flex Clipを使っ
ています。Flex Clipはテキストを動かすテンプレ
ートのバリエーションが多いためです。



4つめのアンフィニの画像は全部テンプレート
で、診断士バッジのロゴと「Infini (アンフィニ)」
のテキストだけ入れ替えています。

Canvaを使っているのは次のオープニングの部分
です。



ドキュメンタリーのイメージに近いのでテキス
トや色を変えて使いました。



元々はこんなテンプレート画像でした。

◆その他の編集

それ以外は「Shotcut」というソフトをダウンロ
ードして細かい編集をしました。作業方法はほとん
どYouTubeで検索して調べました。

この時の反省点は、編集をしているとどんど
ンデータが重くなるため、動きが遅くなりとても時
間がかかった点です。短い動画に区切って編集し、
最後につなげる方法が良いと後から気付きました。
最後に音楽を入れて、音楽と画像の位置を調整し
て完成です。音楽はBGMerという無料サイトを使っ
ています。

このようにして石井会長のドキュメンタリー風
動画が誕生しました。制作時間はおよそ60時間く
らいでしょうか。

ぜひ編集後のYouTube動画もご覧ください。



編集委員 相馬 麻須美



2023年 新入会員研究発表

1月14日(土) オンライン開催

毎年恒例の新入会員研究発表が1月14日(土)に開催されました。今回もオンラインでの開催となりましたが、新入会員の増加により今年は合計10チーム(A~J)による発表会となり、朝10時から夕方17時30分までの丸1日のイベントとなりました。

全チームの発表終了後には、参加者全員の投票により優勝Dチーム、準優勝Bチーム、第3位Hチームと、石井会長の選考による会長賞Eチームが決定しました。受賞されたチームの皆さん、おめでとうございます。ここでは、各チームのリーダーに研究テーマや活動の様子をご紹介します。(★印はリーダー)

Aチーム メンバー：田中佑平★、小泉篤史、佐野紳也、武内哲哉、大久保孝明、福山浩平、西口伸二

研究テーマ：行ってみませんか？道の駅(千葉編)

千葉県には29の道の駅があります。その中で特に、確固たるコンセプトを持って観光客の注目の目を集める道の駅があるのをご存知ですか？

今回の研究では、道の駅ができ上がった背景、道の駅の運営実態、道の駅運営業績を紹介し、直接取材して現場の雰囲気を伝えられるよう旅行情報誌の雰囲気でもとめました。

千葉県の道の駅29駅のうち、25駅の運営者からアンケートのご協力をいただきました。

特に保田小学校の大塚駅長(校長)・中村副駅長(教頭)には積極的なご協力をいただき、宿泊者しか利用できない寝室や浴室などの撮影にもご許可いただきました。

本研究内容をまとめ自費出版形式にて、道の駅の紹介冊子「行ってみませんか？道の駅」を刊行しました。国内最大の同人誌即売会「コミックマーケット101」にも本書を出展し、本書をきっかけに



多くのクリエイター・経営者・政界経験者の方と交流することができました。



準優勝

Bチーム メンバー：磯野一貴★、遠藤康浩、阪上隆司、寺岡直樹、辰巳太兵衛、佐藤雅則

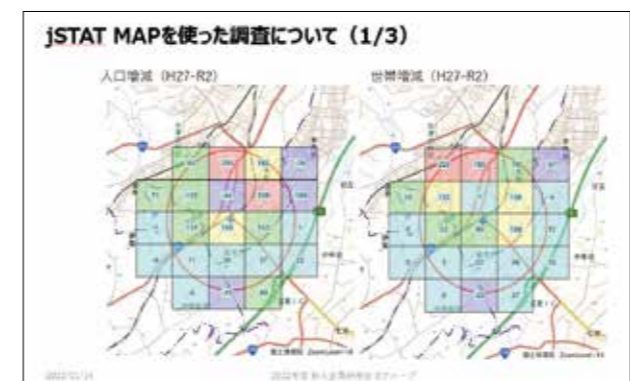
研究テーマ：診断業務に用いるITツールの検討
— jSTAT MAPの活用方法 —

今回の研究では、国勢調査をはじめとした各種データを可視化するツールであるjSTAT MAPの診断業務への活用方法を検討しました。①はじめにすべきこと、②補助金申請への活用、③分析例、④活用例の観点でもとめました。

まず、報告までたどり着けたことに安堵しています。初回の打ち合わせにて「飲食店におけるITの活用事例を調査・分析する」という大まかな方向は決まったものの、「結論が出ないのではないか」、「そもそもデータの収集が難しい」といった

問題に直面し、序盤はテーマの再設定に非常に苦労しました。

テーマの再設定に各自の疑問や経験に基づく小テーマを持ち寄って議論したのですが、小テーマがうまくばらけていたこともあって、中盤以降はスムーズに進みました。この研究を通して、メンバー間の相互理解が深まったことは非常に良かったと思います。



Cチーム メンバー：渡辺俊輔★、根本義之、米本利行、鈴木盛太、山口大貴、増山貴夫、太田さおり

研究テーマ：診断士っぽい分析で千葉を理解する

「御宿に派遣されたけど、どうする？」というように、千葉県協会の多くの診断士にとって地元であろう千葉だけ知らない土地もある。そんな時に少しでもその土地を理解するための一助になればと思い、メンバーの専門分野を切り口に千葉県をいくつかの側面から切り取ってみました。

建設、IT、補助金、金融など、各分野の専門家が集まったCチームだったので、一つのテーマに絞るというよりも、それぞれの専門分野に沿った形で千葉県を概観してみようということになりました。

た。バラバラのように見えるそれぞれのレポートですが、メンバーそれぞれが「Cチームとしての方向性」をよく理解し「市町村別の比較」や「他県との比較」などアレンジを加えて分析できたので、一つのストーリーに繋げることができたと思います。さすがは診断士。診断士という専門家の顔に加えて、それぞれが深い専門分野を持っている。診断士同士の協業・コラボレーションに大きな可能性を感じることができた研究会でした。

診断士っぽい分析で千葉を理解する
御宿に派遣されたけど・・・どうする？
きっかけはメンバーのこの発言でした。私たちが中小企業診断士は、経営の様々な課題に幅広く対応します。そこで問われるのは、柔軟な対応力。未知の業界でも、また、その地域のことを知っていかまいが、臨機応変な対応力で、まるで「得意分野です」というような顔をして支援することが求められる場面も少なくありません。しかし、きっかけさえつかめれば話を盛り上げられるのも診断士の魅力の一つ。Cチームでは、メンバーの専門分野を切り口に、千葉県のいくつかの側面を「診断士っぽい視点」で切り取ってみました。



優勝

Dチーム メンバー：赤坂優太★、曾山勝、瀧上圭太、宮前治、小林均、佐々木光城、窪田浩輔

研究テーマ：ブームが過ぎても生き残る秘訣

タピオカ、高級食パン、唐揚げなど、近年はブームの流行り廃りが非常に激しい印象です。この機運に乗るべく中小企業も苦慮していますが、果たしてブームに乗じて新規事業を始めるのは推奨されることなのでしょうか。中小企業が新規事業を始める際に熟慮すべきことを「ブームが過ぎても生き残る秘訣」としてまとめました。

終わってみればあっという間の半年間でした。テーマはすんなり決まりましたが、肝心の中身をどう作るかはメンバー全員で議論を重ねました。

タピオカの市場規模や店舗の出店の仕方、ブームの歴史までを調べるという迷走ぶりでしたが、こちらは発表中の寸劇で活かされたので結果オーライです。寸劇の小林さんと宮前さんは年末年始にこっそり練習をされたとか。オンライン開催が決定してからは、寸劇の臨場感をどのように出すか、そしてどのように寸劇からまとめに繋げるかに苦勞しましたが、発表で皆様にご評価いただけて何よりです。メンバーの皆さん、本当にありがとうございました。

◇ブームが過ぎても生き残る秘訣 まとめ

<秘訣1> 基本に忠実にあれ〜勢いだけで始めない
 (1) 内部環境分析：強みを活かし、他社との差別化を図ろう
 (2) 外部環境分析：地域にニーズがあるか、競合がいる中で十分な市場規模を確保できるか分析しよう
 ⇒勢いはある程度必要だが、勢いだけ(無業)で始めない!

<秘訣2> シナジーを生かす
 ビックロ(ビッグカメラ×ユニクロ)での売上アップ・・・
 ・モバイルセンター×コンビニ店??
 ・スポーツジム×書籍販売??
 ⇒シナジーを生み出せるかの視点を持つ!

<秘訣3> 長期の視点で取り組むべし
 ①短期決戦で逃げ切る
 ②既存事業との長期的な相乗効果を狙う
 ③需要が縮んだ後でも生き残る

企業の方向性(経営方針)を明確に経営計画を作成する



会長賞

Eチーム メンバー：井上貴博★、藤岡良行、金子孝弘、蓮池寛、大口憲一、瀬口力也、猪師康弘

研究テーマ：デジタルマーケティングへのアプローチ

世の中には低コストや無料で導入できるデジタルマーケティングツールがいくつもありますが、中小企業ではそれらを活用できていないケースが少なくありません。そこでEチームでは、まず自分たちがデジタルマーケティングを習得して、実

際に中小企業経営者へのインタビューを実施し、課題解決への提案を実践しました。

「デジタルマーケティングについて研究しよう!」と賛同したメンバー一同。しかし製造業偏重のメンバー構成で、全員デジタルマーケティングの支援経験はありません。まず自分たちが勉強し、2週間に一度ZOOMで集まり各自の調査結果を発表し知識を深めていきました。メンバーの瀬口さんよりランコントの高橋氏をご紹介いただき、大きな夢を持ち生き活きと経営に取り組まれている高橋氏の支援を行って行く中で、メンバー全員が改めて中小企業の支援を行うことの重要性、デジタルマーケティングは大きな推進力になることを再認識しました。ご協力いただいたランコント高橋氏と研修機会をいただいた研修部の皆様感謝申し上げます。

デジタルマーケティング戦略の提案

デジタルメディア戦略のシナリオとフェーズ別の目的

	短期 (3ヶ月) ファン基盤拡大 SNSへの集客	中期 (3年) 影響力拡大 個人/法人の ファンエンゲージ	長期 (5年10年) ブランド力向上 オンライン/オフライン 連携強化 グローバル展開
集客方法	はたき等の地域資源を活用しながら自社の経営資源をより理解している	集客方法としてSNSを活用し、影響力を拡大し、個人/法人のファンエンゲージを実現する	ファンエンゲージを実現し、影響力を拡大し、個人/法人のファンエンゲージを実現する
集客メディア	LINE/EC/Google/YouTube/Instagram/Twitter/Facebook	YouTube/Instagram/Twitter/Facebook	YouTube/Instagram/Twitter/Facebook
集客内容	地域・業種・業種別	地域・業種・業種別	地域・業種・業種別
集客効果	集客	集客	集客

Fチーム メンバー：小泉孝之★、伊皆正俊、井尾生太、橋居修三、久保昌樹、稲葉清

研究テーマ：いすみ・大多喜地域の観光研究

千葉県の観光地であるいすみ・大多喜地域の産業について研究しました。いすみ・大多喜地域は漁業、農業の特産品が豊富にあり、交通インフラ

が整備されていることで観光地としての魅力があります。今後のポストコロナ時代における地域事業者の事業戦略について、事業者と直接ヒアリングを行って研究しました。

チームの仲間と事業者に会いに行き、リアルで交流・同行できたことが良かったです。ヒアリングの質問や事業者との接し方等学びが多かったです。この学びながら仕事できる環境をより発展できるようにこれからも仲間を大切にしたいです。苦勞した点はありませんが、もう少し時間をとって現地の研究ができればよかったです。当地域に滞在し、観光名所の平日と休日の人流等を調べられたらより深い研究に繋がったと思います。工夫した点は1日で回れるプランを作り、効率的に研究できた点です。電車の時間や滞在時間等を考慮し、日本酒を飲んででもくだをまく人はおらず、最終電車に遅れないように「帰るまでが大人の休日倶楽部」だと工夫しました。

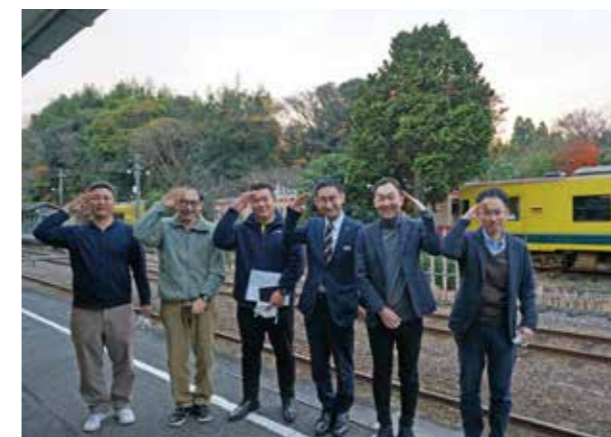
まとめ

・地元企業は地域資源を活用しながら自社の経営資源をより理解している

・自社の独自性に共感するニッチな顧客を獲得するために自社の強みを日々研鑽し、独自性・革新性のある取り組みを行っている

・環境変化への対応について既にポストコロナに向けた事業プランを実行している。新たな機会を活かすことでより事業者の強みが活かせるため、中小企業診断士は環境変化によって新たに生まれる業界変化、流行等を情報提供することが事業者の経営資源を活かすきっかけとなり、重要である

木戸泉酒造での酒蔵見学、伝統製法の日本酒で海外展開を狙う



Gチーム メンバー：奥山崇★、中須浩二、玉川祥久、小川優太、次田光希、稲垣隆介

研究テーマ：成田空港を中心とした観光客増加に向けた誘致策

千葉県にはユニークなインフラとして成田空港があります。観光客数は回復しつつある中、周辺地域の観光産業にはどのような経済効果があるのでしょうか。観光客の動向調査や外国人へのインタビューを通じて、空港や周辺のおススメスポットの紹介、観光施設への提案やSNSでの魅力配信方法など、観光客誘致につながる提言をまとめました。

メンバー全員の関心が成田空港にあったため、空港周辺の観光客誘致策というテーマにはすんなり落ち着きましたが、各人の多忙もあって、ミーティングはオンラインが中心となりました。調査には外国人の意見を取りこむため、メンバーご息

成田空港利用の日本人観光客向け周辺観光コース

成田空港を利用する日本人観光客は、主として東京近郊および県内諸都市を訪れる観光客と考えられます。このため、それらとは異なるコースに合致するスポットへ、便利なアクセス付きの「ついで観光」を設定することで、強力に「千葉」の良さを訴求します。

「地味な名産品が楽しめる」
 成田山新神宮 (成田市) 空港から車で15分
 空の駅 さくら6線 (成田市) 空港から車で5分
 空の駅 黒川堂しほりやま (芝山町) 空港から車で10分
 道の駅 多岐あじさい園 (多古町) 空港から車で18分
 道の駅 のもと (色原市) 空港から車で15分



女のフランス語教師で日本通でもあるルドヴィック氏にオンラインインタビューを実施し、外国人の本音を聞き出すことができました。また、メンバーにはSNS専門家があり、ツイッターによる観光施設の魅力配信方法をうまくまとめることができました。最終盤の1月9日に成田空港の現地見学のために初めて集合しましたが、初対面ではないような感覚もあり、チームワークよく空港内を視察して発表に盛り込みました。メンバーの皆さんに感謝します。

第3位

Hチーム メンバー：瀬田隆継★、佐々木修、北野晃浩、廣瀬力也、菊地裕介、喜多康人、相馬麻須美

研究テーマ：シクラメン事業の創業とコミュニティファームの可能性における調査

2022年春、実家である東金市の花卉農家（山岸園芸）から引き継いだシクラメン事業で開業した、個人事業主の山岸さんへの創業支援に取り組みました。事業を成長・安定させていくため、手掛けているシクラメン栽培や販売、野菜作り、コミュニティファームなど関心事をもとに調査し、これからの方向性案をまとめました。

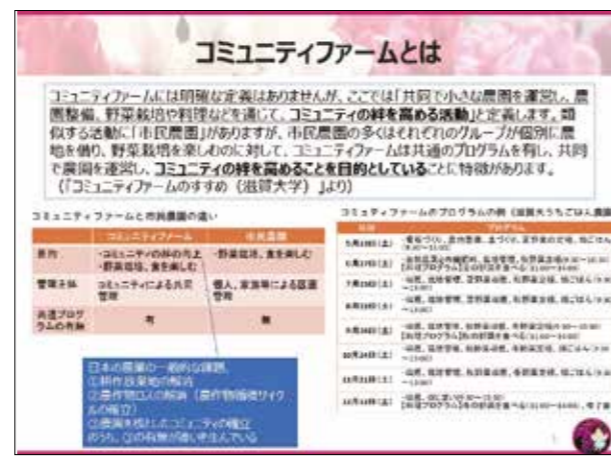
経営者からは苦悩と覚悟、事業内容からは業界や事業可能性、チームからは仲間意識や現代のコミュニケーションの取り方など、様々な視座で見つめる有意義な時間を過ごせました。

購入動機は人のつながりですが、個人的に5千円ものシクラメンを買うのはドキドキしました。

メンバーと実際にお会いできたのは1～2度のみ。会えていない方もいますね。

思いがけないことも起こりました。昨夏台風8号で現地訪問を変更したり、メンバー間にもコロナが身近になりました。私が感染した時はリーダーを変更してもらうなど、迷惑を掛けてしまいました。復帰後は温かく迎え入れていただいて、この

チームに出会えて本当に良かったと実感しました。



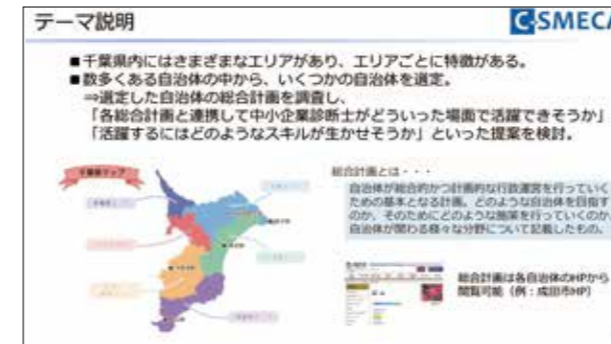
Iチーム メンバー：大久保裕之★、榎本健蔵、奥村幸平、小野泰、吉田真一、岡田峻、江口光司

研究テーマ：千葉県内の自治体の総合計画と連携した中小企業診断士の活躍の場の提案

千葉県内の自治体の中からいくつかの自治体を選出し、各自治体が掲げる総合計画の内容を調査しました。それらの総合計画の施策と連携し、中小企業診断士がどのような場で、どのようなスキルをもって活躍できる可能性があるかを検討・提案としてまとめました。

Iチームには千葉県在住歴が短いメンバーもいますが、今回の研究をきっかけに千葉県内の自治体ごとの特徴（税収、人口、産業など）を知ることができ、各メンバーにとって「千葉県」がより身近な存在になりました。当初、研究の方向性の認識合わせに少し苦労しましたが、方針が決まっからは各メンバーが積極的に自治体の調査や提案

内容の検討に取り組むことができました。工夫した点は、ミーティングが少しでも話しやすい場になるようにミーティング前に「最近あった良いことや最近新しく始めたこと」を各自1分で発表するという取組みをしたことです。



(チームの写真のポーズは指を一本たてて「Iチーム」を示しています)

Jチーム メンバー：伊藤優志★、佐野健次、大西一史、里中智哉、櫻井義之、杉谷健太、小嶋聖司

研究テーマ：中小企業診断士としての創業（スタートアップ）との関わり方

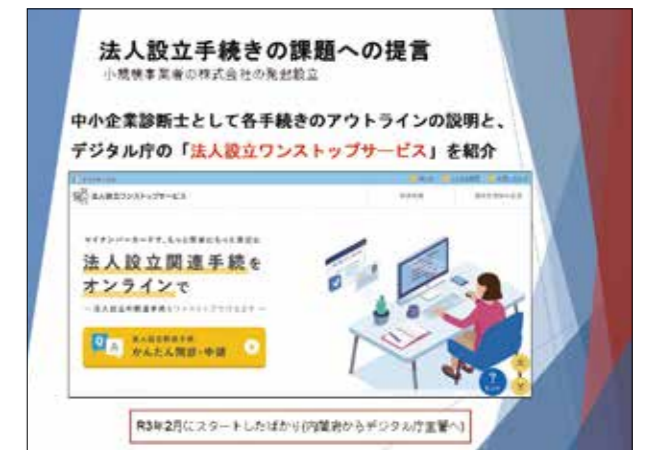
創業の増加は経済の新陳代謝に重要な要素ですが、日本の開業率は先進国の中でも低い状況です。今回、経営支援のプロフェッショナルである、我々中小企業診断士が創業の増加にどのように関わっていくことができるかをテーマとして研究しました。

チームの皆さんが、自身の仕事やプライベートがある中、月1回の打合せに参加して、色々な意見交換を行い、最終的に発表資料を作成することができました。(発表日にリーダーの私がハネムーンで、皆さんに迷惑をかける事態に・・・)

意見交換の中で、この創業という分野に関しては、各々の診断士が独自に関わる機会は少ないことや、創業間もない場合は財務的な余裕がなく、診断士として報酬がいただきにくいという意見もありました。

しかし、現在、政府がスタートアップ育成5ヶ年計画を打ち立てるなど、創業支援を推進する機運は今後高まっていくと思っております。

今回発表した内容が少しでも、診断士の皆さんの参考になれば幸いです。



編集委員 喜多 康人 

アンフィニができるまで

Infini (アンフィニ) は、千葉県中小企業診断士協会や会員の活動を紹介する**広報誌**です。発行は現在年1回ですが、会員に加えて他県協会や各支援機関などにも広く配布されています。

ここでは、今回のアンフィニ第49号がどのように作られて皆さまのお手元に届いているかをご紹介します。

1. アンフィニの歴史

1993年 8月	アンフィニ創刊
1997年10月	臨時増刊号(山梨県しょうにん通り商店街視察研修紹介)
2012年11月	千葉県協会設立紹介号(第39号)
2020年10月	千葉県協会60周年記念誌発行
2022年 3月	紙面のフルカラー化を実現

※詳細はアンフィニ第48号P30～P31をご参照ください。



2. アンフィニ第49号の制作スケジュール

今号は昨年7月から編集会議を開催して制作を進めました。

日程	活動	内容
7月10日	第1回編集会議	アンフィニ委員顔合わせ、企画検討、役割分担
9月 7日	新会長取材	「石井新会長に聞く」取材、動画撮影
9月中下旬	新会長紹介動画の制作	「石井新会長に聞く」動画編集、BGM、ナレーション
10月 8日	秋の診断士まつりコラボ	「石井新会長に聞く」運営(動画紹介、インタビュー)
12月18日	第2回編集会議	進捗確認、企画・担当の変更
1月14日	新春懇親会取材	「新入会員研究発表」の取材
1月15日	新旧会長対談 プロジェクト推進室取材	「石井新会長・今井前会長対談」を実施して取材 「新体制・プロジェクト推進室」の担当理事を取材
1月22日	第3回編集会議	進捗確認、スケジュール確認
2月 5日	入稿原案のメチ	各担当の原稿メチ。その後相互チェック
2月20日	入稿	アンフィニの原稿を印刷会社に送付
2月27日	初校受け取り	印刷会社から最初の紙面案の受け取り
3月上旬	校正やりとり	印刷会社と数度校正をやりとり
3月17日	校了	最終修正の提出
3月22日	印刷	印刷会社でアンフィニを印刷
3月24日	製本・発送	印刷した紙面を製本して発送
3月27日	納品	事務局にアンフィニが到着

3. アンフィニ編集委員について

アンフィニはアンフィニ編集委員が取材、撮影、原稿作成や依頼、編集を担当しています。今号の編集委員と担当した感想をご紹介します。

アンフィニ第49号 編集委員のご紹介



桂川 慎一

(かつらがわ しんいち)

- ・協会入会年/2016年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/ポケモンGO+ウォーキング
- ・一言PR/酒とカラオケをこよなく愛する変わり者

●今号制作で苦労したこと、良かったこと、アンフィニへの思い
今号に限った話ではありませんが、編集委員の人手不足に悩んでいます(笑)
石井孝昌新会長の人柄にふれていただければと思います。
デジタル時代の今だからあえて紙媒体の良さを伝え続けたいです。



鈴木 直人

(すすき なおと)

- ・協会入会年/2019年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/サッカー観戦・バスケット観戦
- ・一言PR/少年サッカーですがコーチング経験豊富です。

●今号制作で苦労したこと、良かったこと、アンフィニへの思い
今号ではプロジェクト推進室の記事を書きました。その取材の中でプロジェクト推進室だけでなく、協会組織全体の理解も進みました。今号をお読みになる皆さんの理解も、私と同じように進めばこの上ない喜びです。



鈴木 園子

(すすき そのこ)

- ・協会入会年/2020年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/テニス・ゴルフ
- ・一言PR/子育て中なので、両立して頑張ります！

●今号制作で苦労したこと、良かったこと、アンフィニへの思い
新旧会長対談では、実はもっと面白い話がたくさんありましたが諸事情でカットせざるを得ない部分も…。そういった苦労はありつつ、いろんな裏話を聞けるのは担当者の役得ですね♪



庄子 幸子

(しょうじ さちこ)

- ・協会入会年/2021年
- ・独立or企業内/独立
- ・趣味/旅、読書
- ・一言PR/高知・四万十へ行くときはお声がけください！

●今号制作で苦労したこと、良かったこと、アンフィニへの思い
担当テーマ「診断士の武器を探る」にあたり、3名の方へのインタビューで私自身が大変勉強になりました。アンフィニの活動を通して、他の診断士の考えや経験などを伺い、協会の皆様に知っていただけるのが嬉しいです。



相馬 麻須美

(そうま ますみ)

- ・協会入会年/2022年
- ・独立or企業内/2023年3月から独立
- ・趣味/サウナ
- ・一言PR/色々なデザインを考えるのが好きです

●今号制作で苦労したこと、良かったこと、アンフィニへの思い
アンフィニの制作の前に診断士まつりとのコラボで初めて動画編集をすることになりました。編集するにつれてどんどん動画が重くなり、一言修正するのに1分くらい待つ、という苦行を経験しました。

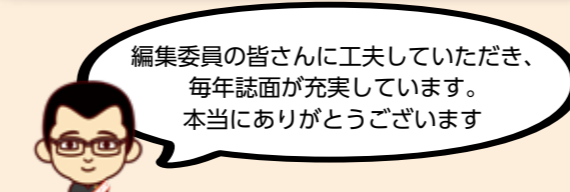


喜多 康人

(きた やすひと)

- ・協会入会年/2022年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/手打ちうどん
- ・一言PR/うどんのことなら何なりとご相談ください

●今号制作で苦労したこと、良かったこと、アンフィニへの思い
新入会員研究が10チームあり、各チームに依頼した情報提供の回収が心配でしたが、皆さん協力的でもスムーズにできました。アンフィニで千葉県協会の横のつながりをさらに強くしていきたいです！



編集委員 喜多 康人





協会新体制紹介

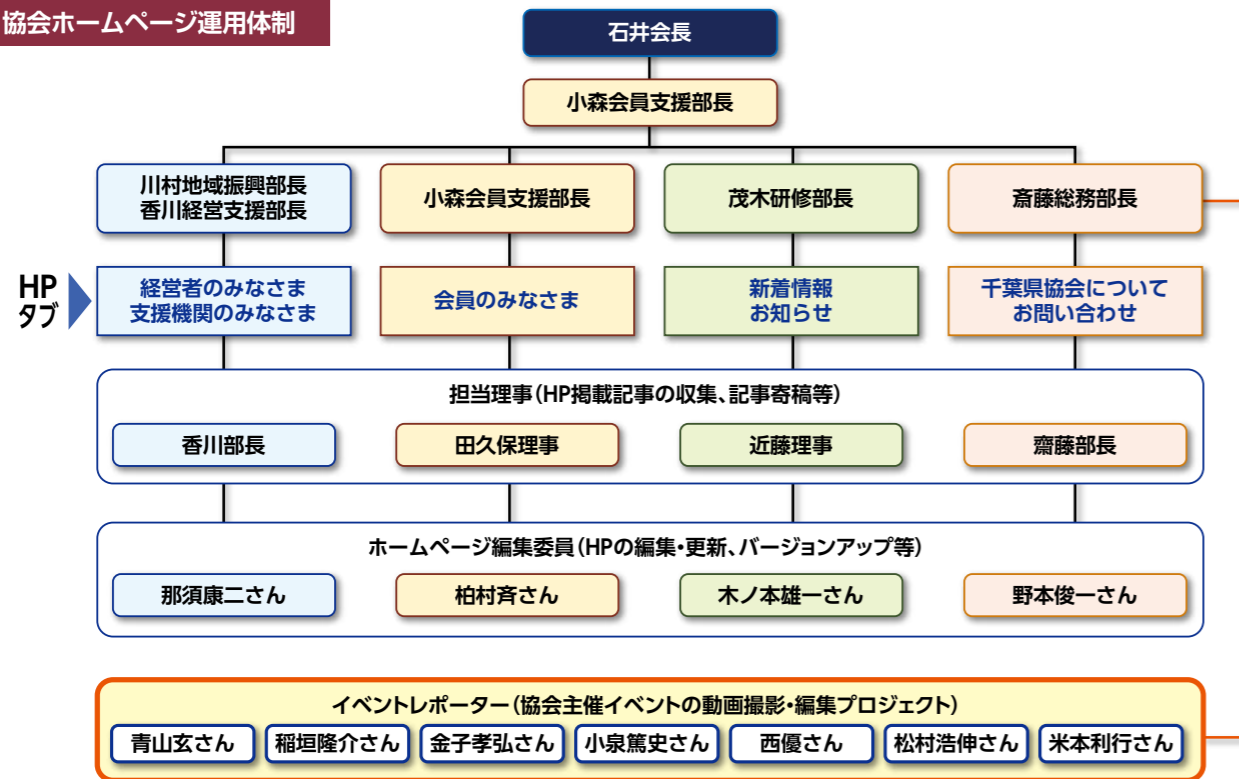
「イベントレポートチーム」が活躍中！

皆さんは「イベントレポートチーム」をご存じですか？実は昨年から活動を開始しています。今回はそんな「縁の下の力持ち」を紹介します。皆さんもイベントレポーターになりませんか？

目的

千葉県協会の活動を多くの方々にタイムリーにご理解していただくために、千葉県協会主催の各イベントについて取材を行い、動画を撮影、編集して千葉県協会ホームページに掲載していく。

協会ホームページ運用体制



- HP担当理事が記事収集、寄稿し、イベントレポーターが動画撮影・編集したものを取りまとめ、担当部長、会長に記事内容について承認を得る。
- 承認が得られたものについて、担当理事からホームページ編集委員へホームページへのアップを依頼する。
- HP全体の取りまとめは、「会員支援部長」とする。但し、「協会主催イベントの動画撮影・編集」については、総務部長をPJリーダーとする。

活動記録と担当

2022年8,9月	渡辺奈月さんを講師に「スマホで動画撮影・編集セミナー」を全員で受講
2022年10月8日	秋の診断士まつり（西優さん、金子孝弘さん） 動画1
2022年11月3日	理論政策更新研修（米本利行さん、稲垣隆介さん） 動画2
2022年11月9日 (今後の予定)	診断士の日イベント（西優さん、青山玄さん） 動画3
2023年4月15日	春の診断士まつり（松村浩伸さん、小泉篤史さん）

任期について

7名のレポーターの任期は、令和5年度までとしています。その後、新たに募集を行って2年毎に交代で検討しています。

動画1



動画2



動画3



「イベントレポーターの声」



青山 玄さん

弁護士・中小企業診断士の青山玄です。動画編集は全くの未経験ながら、クリエイティブな仕事をしたい!という思いから、無理を言ってメンバーの末席に加えていただきました。渡邊先生の動画編集講座はとても分かりやすく、動画編集の基本の基本を学ぶことができました。おかげ様で、素人の私でも何とか動画を1つ作ることができました(動画編集にハマるかも?)。会員同士で学び合い、成長していくというのは、千葉県診断士協会の素晴らしい文化だと思います。私も、会員の皆様と切磋琢磨しながら、(動画編集のスキルを含め)成長していきたいと思っています!



稲垣 隆介さん

千葉県協会新入会員で企業内診断士の稲垣です。私は、建設に係る資材のメーカーに勤めています。コロナ禍以降、お客様と対面しての営業機会が減り、動画を活用した商品プレゼンが増えていきます。今回、動画撮影・編集の実践の機会をいただき、大変勉強になりました。仕事、プライベートで学んだスキルが生かしていきたいと思っています。



金子 孝弘さん

2022年入会の金子です。新参者をお見知りおきいただきたい一心で立候補(そんな映像制作経験のない私に、事前講習は制作テク満載で超有料級のありがたさでした!) さっそく「診断士まつり」にご指名いただき、構成や撮影を務めました。ご多用な先輩方への協会活動の共有に貢献できれば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。



小泉 篤史さん

保険薬局チェーンの会社に20年勤務していましたが、昨年独立しました。さて今回、渡邊先生の動画編集セミナーに参加しスマホ

アプリで動画を編集してみる経験を得ました。益々広がる動画発信に正直ついていけなかったのととても有難かったです。チームへの参加を通して実践していけたらと思います。よろしくお祈りします。



西 優さん

支援先に「インスタやYouTubeで顧客との繋がりを…」等の提案をしたことがある方は多いかと思えます。しかしながら、自分自身の情報発信とブランディングが十分でないと思い、練習ついでにイベントレポートチームに手を上げてみました。動画の構成や見せ方など、まだ勉強中ではございますが、千葉県協会YouTubeをご覧いただけますと幸いです。



松村 浩伸さん

この度、千葉県協会ですら新しく発足されたイベントチームに参加させていただくことになりました、松村浩伸と申します。千葉県協会で行われる様々なイベントの様子やその魅力を、より多くの方に、よりリアルにお伝えできるように、頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



米本 利行さん

イベントレポートチームの米本利行です。動画撮影の研修受講後、先日開催の「理論政策更新研修」の動画を撮影しました。内容のみならず、講師を含めた真剣な会場の雰囲気や、受講生からの熱を帯びたコメントの様子を伝えられるのは、動画ならではの感覚です。今後も千葉県協会の良い雰囲気も含めて知っていただける、そんなコンテンツ作りを心がけてまいります。

編集委員 桂川 慎一

